

大阪新聞

自第一号
至第十号

一

1 卷 8

69

1

9 60 1 2 3 4 4 5 6 6 7 8 8 9 9 70 1 2 3 4 4 5 6 6 7 8 8 9 9 80 1 2 3 4

門1第8
第69
卷1

大阪新聞
第一號

明治壬申三月

定價三錢五厘

緒言
今也新聞紙ノ世ニ盛ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カンヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新開化ノ盛世ニ負カサルノ微
意ニ寄ルモノ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレナハ社中ノ幸甚之ニ過ン

大阪新聞第一号 明治五年申年三月



○西京ノ博覽會ハ去ル十日ヨリ開場ナリシカ昨今餘
程ノ賑ヒニテ日々當地ヨリ上京スル外國人影シキ趣
ナリ曾テ票告ヲ四方ニ發シテ奇品ヲ募リ又有無交易
ノ通義ヲ擴メントノ一大事ナレハ當地ヨリモ家藏ノ
珍物其他賣品此會ニ出スヘシト御布告アリテ許多ノ
奇品妙品或ハ諸國ノ産物等己ニ頃日淀川三十石船三
艘ヲ以テ輸送シタリト云右ニ付物品募リ集メ方ニ周旋
盡カシタル三名ニ左之通賞セラレタル由

明治五年三月

伏見町 山下 嘉助

北濱三丁目 山中吉郎兵衛

伏見町 加賀屋松兵衛

其方共儀當府下ヨリ京都博覽會へ物品差出方布告、
主意ヲ奉シ諸人ヲ勸奨シ終始奔走盡カイタシ許多、
物品差送ル事ニ相運ヒ彼是遂心配神妙ノ至ニ付爲褒
美新幣百二十五錢遣之候事

○長州ノ士有川氏ハ元治元年、秋京師ニテ戰死ノ一
人也于時歲十九平常嘗テ自得、咏史一篇アリ慷慨必
ス吟セスニハアラスト今年其老母祭祀ノタメ上京ヒ

シニ碑碣顯然タレト彼詠史一篇ノ世ニ傳ハラサレヲ
歎シテ近世流布マル所ノ振氣篇興風集等ニ追録セン
トヲ計ルト雖事速ニ成ヘキニアラ子ハ暫新聞ニ舉テ
以四海ノ英雄ニ告ントヲ欲スト云

咏史

豐浦縣士族

有川紀綱

事業何期成不成、英雄決死在平日、君看三尺湊川石楠
子誠忠今古明

○西京物産引立會社中ヨリ兼テ普魯西人カル、レイ
マンヘ注文セシ傳便船俗ニ西京丸着津シタリ間余十七
三是ヲ大阪川口ニ浮ヘテ神戸下ノ關其他國々へ出船

セント也其迅速ナル二字間一日時十二里ヲ疾行スト云

出帆所 川口 富島町

○近日ノ内峰山ノ純白牛十二頭ヲ東京ヨリ牽連レ牧

牛及ヒメルキノ製造ヲ開クモノ有ト云

○大阪ハ驛場ニアラスト雖東海道五十三所ニ慣ヒ此

度陸運會所取建ノ儀願出ルモノ有シヨシ御採用ナラ

ハ人馬繼立自由ニシテ旅客ノ幸甚知ルヘキナリ

○去ル二月廿五日河州道明寺天満宮へ諸人群參セシ

中ニ騎馬ノ士貳人アリテ其甲ハ門前ヨリ下馬シ其乙

ニモ下馬スヘキ昔ヲイヘト用ヒスシテ門内へ乗込ヤ

否馬ハ忽マチ四足ヲ折タ礎ト計ニ平張ヒラバツタリ群衆ノ見ル

前ナレハオカシハ猶我慢シテ鞭チニ鞭打テ漸馬ハ起立タレ

ト逡巡畏縮ノ色ヲ顯ハシオカシ乙ヲ乗セシマ、門外遙カニ

駈出タリトソ嗚呼カケ此士神威ヲ犯シテ萬人中ニ面目ヲ

失ヒケルソ淺間シト見ル人間ク人云アヘリ

○千金ヲ盗ンテ此節捕ラレシ賊ノ金子ヲ遣ヒ捨シ中

ヲカシキ話アリ彼ハ遠國ノ船子ナリシカ金ヲ得テ後

一日己カ衣裳ヲ呉服店ニ注文シ價直五十圓計リ相渡

ス時其店方ノ手代ニ別ニ金一方ヲ呉遣シタリ就縛シツカフノ

後其趣意ヲ尋問サレシニ金ヲ遣フ時ハ必花ストイフモ

ノヲ遣スモノト聞ツルヨシ答ケルトソ

〇往日松島ノ往還ニテ四區ノ邏卒ニ捕ヘラレシ賊ニ

モ一笑话アリ邏卒此賊ヲ引倒サント髮ノタブサヲ擱

テエイヤト曳ニ賊ハ中國ノ徒刑場ヲ脱セシモノトカ

ニテ附髮セシヲナレハフーツト計引拔シヲ彼ノ三保

ノ谷カタメシニハアラストテ或人狂歌ニ

附ツケカミ被ツケカミ毛ヌスビト取ヌスビトてヌスビト人ヌスビト乃ヌスビト首ヌスビトのヌスビトちヌスビトろヌスビトをヌスビトとヌスビトめヌスビト以ヌスビト智ヌスビトもヌスビト送ヌスビト

〇去ル十一日ハ

神武天皇御例祭ニ付官員ハ朝六字迄ニ生魂社へ参集
シテ遙拜アリ畢テ八字ヨリ諸人参拜御差許アリ又同

断ニ付同日朝七字ヨリ夕四字迄諸人男女ニ限ラス城

中拜見ヲ勝手ニ御差許ナサレタリ此日好天氣ニテ春

色十二分也

因ニ云生魂社ハ豊太閤ノ頃ニハ今ノ天満ノ天神ノ

如ク諸人参詣モ夥敷一盛場ナリシカ次第寂寞ナリ

シ由古老ノモノ語り傳ヘシヲ聞ツルニ

御一新ノ後御崇敬アラセラレシヨリ諸民尊信スル

取ヲ知テ昔ノ春ニ立歸リ數十株ノ櫻新ラタニ神德

ノ光リヨ和ラケ花下ノ筵ニハ貴賤太平ヲ謠歌シ此

日ノ郡叅殊ニ夥シク和樂相賑ヘリ

○當地モ日々ニ開化シテ豪商ノ内其主人ハ素ヨリ番頭手代小者下人ヲ論セス一家ノ男子悉^{サンバツ}散髮ニ成タルアリ其外市人散髮シテ愉快ヲ稱スルモノ又少^{ガシキリ}カラス

○當地御布令ノ内寫シ

此程南町壹丁目太鼓屋又兵衛借家池田屋又蔵^{キヤク}俸米吉儀父又蔵病中ノ折柄猶更職業ヲ勵^{ハダ}ニ孝養ヲ可盡處無其儀兩親之教訓ヲ不用身持^{モチ}放蕩孝養ヲ缺^{カク}而已ナラス剩^{マカ}へ不如意ノ親へ難題申掛承知不致^{イキホ}ヲ憤^{イキホ}リ手向ヒハ不致共器物等ヲ破損致シ候始末不埒^{フナチ}ニ付處刑申付候^{モト}總^{ソウ}テ子タル者右休ノ^{シワザ}所業有之候テハ大ニ人道ニ戾^{モト}リ

天地ニ對シ不相濟儀ハ兼テ卑賤ノ者迄モ相心得^{ハジ}可申^{ハジ}筈ニ候得共尚心得違無之様令告諭候事

壬申三月

○當地ヨリ京都迄鐵道建築仰出サレタリ此御^{セイキョ}盛舉落^{ラク}成セハ衆庶ノ便宜ハ勿論隨テ大阪ノ繁榮尚一層ノ^{ソウ}盛大ヲ増ヘシ

○當地堂島米市帳合場ヲ新タニ歐羅巴^{ヨウロッパ}風ニテ造營セ^{フウ}ントノ風説アリ追々開化セハ商法モ極テ盛大ニ成ヘシト云

○昨年中英醫新頓氏^{ニウト}橫濱^{コト}徽毒病院ニ於テ徽毒ノ一書

ヲ記シ日本醫負ノ為一之ヲ著ハサント欲シ此書ヲ外
 務省ニ出シテ刊行ヲ乞ヘル由ナリシカ荻野氏此書ヲ
 得テ以翻譯シ（ハイツク）徽療新法ト名付テ上梓セリ（ウツシ）借新頓氏ハ
 各國中徽療ヲ以振鐸セル程ノ先生ナレハ論說治療（シヤ）
 確實新妙ニノ未曾聞ナル所多キカ故ニ實ニ先生ニ親
 炙（シヤ）ノ學フニアラサレハ能ク其意ヲ得サルヘシ右譯者
 素ヨリ先生ニ從テ能其實ヲ識レル者ニアラサレハ誤
 譯最モ多クノ之ヲ譯セシハ却テ譯ナキカ優（マサ）レリトノ
 說アリ嘆呼惜ヒカナ四方此書ヲ閱スル書生ノタメニ
 說者ノ一言ヲ舉ルノミ

○横濱二月三十日、新聞ニ舉タル中最モ感スヘク其
 趣意諸君ニ告タキアリ

藤澤驛ニ關井喜三郎トイヘルアリ當時横濱元町ニ住
 居セル中山安次郎ハ十年前召仕ヒシモノナルカ喜三
 郎ハ不如意相成去ル己年金百兩安次郎ヨリ借用セシ
 モ尚不仕合打續キ其元手サヘ失ヒテ返金ノ手段ナク
 困却セシニ安次郎ヨリ證文ヲ返シ返濟ノ沙汰ニハ及
 ハサルヨシ申越タリシヲ深ク相歡ヒ其義ノ世ニ顯ハ
 レサルヲ遺憾ニ思ヒ縣廳ヘモ訴ヘシ上尚新聞ニ出版
 ヲ頼ミシ由ヲ書載タリ（ガウ）贅者云安次郎カ舊恩ヲ忘レヌ

其義ヲ知シハ素ヨリ賛歎スヘキ莫ナカラ喜三郎カ其
 真情ヲ歡喜シテ己カ耻ヘキノ筋ヲモ厭ハス人ノ美ヲ
 舉タルコソ又感賞スヘキ事ナラスヤ此人在テ此人在
 リ願ハクハ江湖ノ人皆斯心得アラハ文明開化ノ大御
 代ニ負カサルヘシト

○去ル九日獨乙人フリーベ人乘馬ニテ雜喉場ヲ通行
 シ如何ナルトニヤ落馬シタリ傍ニ遊ヒ居タル兒童之
 ヲ笑ケレハ大怒リ杖ヲ振上ケ打擲セントスルニ兒童
 ハ早クモ四方ニ逃去ケレハ遺憾トヤ思ケン夫ヨリ往
 來人ニ取掛リ種々乱妨スル折柄取締邏卒走セ來様々

甯ラルト雖間入ス杖ヲ以邏卒ヲ打擲セントスルニ
 ヲリ手ニ餘リ竟ニ捕縛シテ外務局ニ引渡サレタル由
 待説ニハ外國ノ狂人ナリト云話アレハ全酒狂ノ趣也
 ○近頃挑谷ニ船來ノ綿羊ヲ飼養アリ價直一匹五十兩
 以下也牝ハ少ク牝羊五匹ニ牡羊一匹ノ割ニシテ夏冬
 ニ分娩ス一腹二匹ニ過ズ毛ヲ刈モ又夏冬ヲ以季トス
 食餌至テ些少ニシテ藁ヲ主トシ飼養豚トハ致易ニシ
 テ其利益ヲ得ルモ又豚トハ遙カニ勝レリ若シ望ムモ
 ノハ挑谷又ハ天湍橋北詰北へ入所へ行ヘシ飼養及ヒ
 摘毛ノ法迄傳習アルヘシトソ

○元羽州ノ人當時平民ニテ在阪セシ養蠶ノ大先生佐
具篤次郎ヲ登庸セラレ府内一般養蠶ノ教授ヲ命セラ
レタリ

○一体蠶卵紙ハ
攝津ノ蠶卵紙ハ元來蛆アルナケレハ此上養蠶ノ法
開ケナハ奥羽信州ニ立並フ程ノ蠶卵紙モ製シ出スナ
ラント云フヘリ去年長柄ノ渡シ近傍ニテ養蠶ヲ開キ
シ片中途ニ至リ素ニ錫シテ丹波ヨリ買入養ケル分ニ
ハ蛆アリシトソ只津ノ國ノ地味來ニ應スルヤ又一奇
トイフヘシ

○此頃當府ノ御布告ヲ閱スルニ辛未年市中天然痘セ
シモ、五百九十人右ノ内死セシモ、百三十五人種痘
セシモ、六千九十一人其中障アルモノ一人モナント
ツ因ニ云種痘、事ハ追々御布令モアリ官府ヨリ種痘
所ヲ設ケラレ御施行アル程ナルニ中ニハ頑固ノ愚説
ヲ信シ又何ノ思慮モナク等閑ニ打過種痘ヲナサシメ
ス竟ニ兒ヲシテ産レモ付マ不具トナシ天然ノ壽命ヲ
害フモノ少ナカラス是等ハ第一天理ニ背キ又不慈是
ヨリ大ナルハナカルヘシ人ノ親タルモノハ宜ク心得
有タキ事ナリ

○浪華ノ西方松島ニ新廓開ケテ舊冬廢セラレ、ノ遊里二十餘ヶ所、モノ共追々爰ニ引移レリ南北其他新町堀江ナトハ歴然タリト雖數人ノ娼妓ヲ松島ニ分配セントノ結構アル由中ノ町通りハ長二百間道幅六間半中央ニ四季ノ草木ヲ植テ壯觀花美ノ一廓トナレリ

○松島ニ人形芝居ヲ新造シテ正月ヨリ興行セリ淨瑠璃ハ竹本春太夫三弦ハ豊澤團平人形ハ吉田玉造一座ニ冠タリ夫レ人形ノ五躰ヲ機關スルモノ合シテ三人而シテ屈伸運動合期シテ一手ニ出ルカ如ク其様恰モ生人ニ異ナラス或云萬事斯ノ如ク同心協カセハ何事

カ成ラサラント座元ハ遠近ニ名ヲ知ラレタル稻荷ノ文樂也

○松島ニ設ク所従前ノ施藥院ヲ今度駐^ノ徽院ト改メラレ府下ノ娼妓悉醫員檢査^{ケンサ}ノ上徽氣アルモノハ皆治療中此院内ニ寄留セシメ身體健全ノモノハ娼妓共人別ニ健全保護ノ鑑札ヲ渡スヘク檢査請ルヲ欲セサルモノハ業体差止ヘキ旨等件々御布令アリ

○右醫員總長松山氏ハ去年十月横濱ヨリ來リテ施藥院ニオイテ府下娼妓ノ徽毒病ヲ治療スル當二月迄ハ百貳人内全愈ヲ得ルモノ五百二十七人ナリト云

助法五
申年
大阪新聞第一号
〇七

大阪新聞第一号

一當新聞一冊定價三錢五厘每月二號或ハ三號出版致
シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

- 新發明ノ巧器及ヒ諸品ノ賣買ノ弘札
 - 店開新規賣出シ觀ヒ物集會等ノ弘札
 - 失物尋物等ノ論田地山林賣買
 - 家屋敷舟車賣買貸借事件等
- 右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十
錢三度分八十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

月廿五

明治五年申年 大阪新聞

大阪本町四丁目

發行所 書籍會社

明治壬申四月

定價三錢五厘

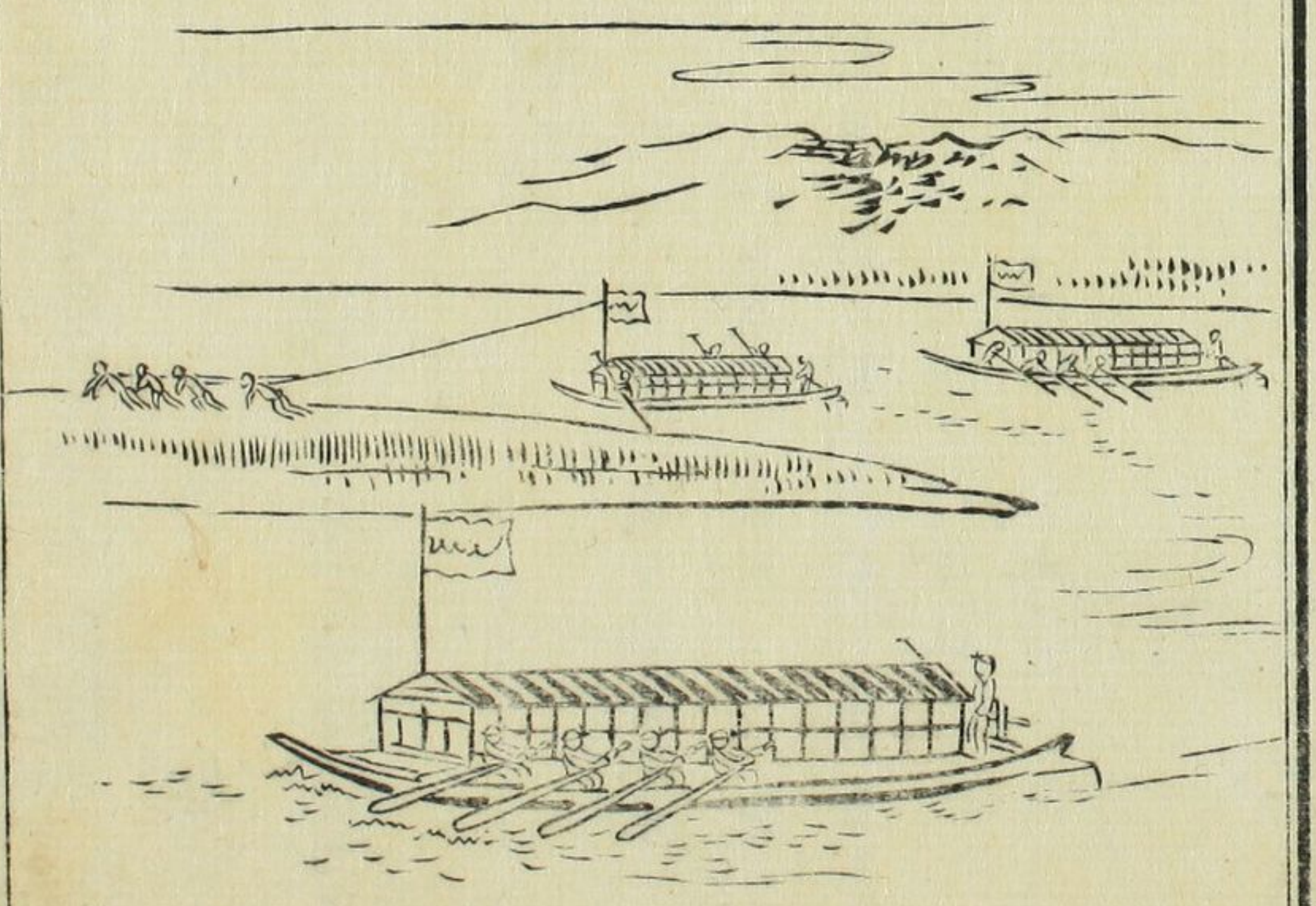
大阪新聞 第二號

今也新聞紙ノ世ニ盛ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
 ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
 經世ノ益ヲ聞カンテヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
 中ニトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ
 今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
 方ノ望ニ達シ日新開化ノ盛世ニ負カサルノ微
 意ニ寄ルモノ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
 サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
 ラレテハ社中ノ幸甚之ニ過ン

緒言

淀川新船之益

迅速あると川並流り
 一歩も過れとも火勢は筆楯
 とかされハ婦女子乃儻と堂
 うらら夜令侍ハ二十ス小羽も
 の濕陋さるとなるとこれハ兼合
 の眠との儻はるや明晃の
 意より存あつて勝景乃愛憎可
 為と庭外の目立をふま身
 便室よあがと怪れ家江湖伎
 利よ越く美人さよ通せし呼
 ころ〜法君察て見と諸更



月名...
 大反行月名...

右ニ因シ併題スル所ハ今度淀川通行ノタメ新製セシ西洋造ガラス張家形早船ニシテ夜ハ燈ヲ點シ酒杯ヲ廻ラヌヲ嫌ハズ船中廁ヲ設ケテ婦人ニ便ナラシム其迅速ナルハ
実試ノ報告アリ左ニ挙ク

船乗場

淀川	上リ一人前 金三朱	伏見京橋	亀甲屋善九郎
	下リ同 二朱	大阪高麗橋	萬屋 伊助
高瀬	上リ一人前 二朱	京四條小橋	山崎 幸吉
	下リ同 一朱	同高瀬五條	竹田屋 濱
貸一艘	淀川上リ 金九兩	同々七條	千九屋 濱
	下リ 六兩		
同高瀬川	上リ 二兩一分		
	下リ 一兩二朱		

淀川早船実試報告

一京師博覧會ニ付此度新造開葺ノ西洋造屋形早船此頃
 夜船計上下通行致居タ七字ニ伏見出船同十二字ニ大
 阪高麗橋迄着船ス実ニ早クメ早船ノ名ヲハチス然レ
 此夜分ナレハ乗込ノ人ヨリ外ニ知ルモノナシ故ニ三月
 廿六日高麗橋ヨリ朝弟八字川蒸気船ニ七八丁程モ
 後レテ出船スト雖モ守口邊ニテ蒸気ニ追付弟三字
 伏見へ上陸スルニ淀川蒸気ハ遙カニ後レテ着岸ス
 即刻伏見ヨリ高瀬早船ニ乗移リ弟五字ニ四條小橋
 へ着船ス其迅速ナルヲ淀川通行未曾有也 借本日蒸

汽ニ乗合シ西京ノ某伏見ヨリ高瀬早船ニ乗込船中
雑話ニ云今日蒸気船早船ニ乗後レジトテ此節河水モ
有十分ニ石炭ヲ焚船方一同骨折シト雖モ遙カニ後レ
ヲ取シトゾ只是我輩ヲ新造船ノ疾行ヲノミ誇ルニハ
アラズ明世利用有テ諸君ニ告ント欲スル而已

○正月中旬頃横濱ヨリ神戸廻船ニ乗衆百人計リ并荷物
幾多積入横濱出港致セシ今以着船セス併シナカラ諸海
岸ニ難波ノ汎聞モナケレハ多分無難ニメ遠カラズ着港
致スベシトノ話アレ此船ニ乗組ミ人ノ親族又ハ用
アル人ノ心痛思ヒヤルベシ

○大阪市街チ此度四大區七十九小區ニ區分シ從來ノ
町名ナ廢シ南北ノ街ヲ何筋東西ノ街ヲ何通ト唱ヘ總
テ町名ハ何丁目ト改メラレ區町ノ境界毎ニ標ヲ掲ゲ
ラレタリ從來ノ町名ハ紛亂錯雜ニメ市中ノモノスラ
気憶シ難カリシモ向後ハ遠國書翰ノ届方來訪ノ客等
ニ便ナル知ルヘキナリ

○大阪技藝者尾上多見蔵星霜七十五齡若手ノ者ニ打
交リ其業ニ冠タリ相撲ナラバ横綱タルベシ旧年ハ加賀
へ出向ケ今年ハ土佐ヨリ筑前へ渡ル當春ニノ替リ道
頭堀角ノ芝居へ出勤シ鬼ノ念仏ノ狂言ニテ大當リテ取

ル鬼モ恫ル壯徒ナリト人ノ噂モ七十五才鬼ノ狂言ニ見
物衆へ御礼トテ三ツ指ニテ申シタリトゾ

○阿州小松嶋西堅保太郎出店東京本八丁橋二丁目野
上屋加右卫門手代久兵卫全下人久蔵ナル者兩人當ニ
月國元本店へ贈リ金三千兩所持致シ蒸気船ニテ神戸
へ着港同十九日淡州へ渡リ陸行セシニ久蔵俄ニ変心致
シ久兵卫ノ透ヲ窺ヒ三千兩取逃ニ及ビ事件同廿六日
大阪廳へ訴エ三月四日越前敦賀ニテ召捕へラレタル
ヨシ

○新聞紙第一号ニ載セシ娼妓共黥毒検査ノ件々御布

令後遊里一同歎願モ有ケル由ニテ遊女屋渡世ノ規則左
ノ通改正相成シ由

女即 藝子 情客ヲ 座着女 賣色セ
取ルモノ ガルモノ

此女郎藝子ハ月々検査ヲ請ヘキモノニテ形容衣漿
従前ノ通ナリ座着女ハ凡俗ヲ改ム

髮東京凡 衣類縞或ハ小紋ノ類 袷打合ニ着
簪一本 白齒薄化粧 履モノ木地下駄

右座着女共自然内容ニテ賣色娼犯アル片ハ藝子ニ
加へ申ベク又座着女一人ハ客先へ送り込マスニ
人ヲ一組ト相定其中一人賣色娼犯コレアル節残ル

一人モ連座ニ處シ且遊女屋ヲイテハ座着女ヲ來客へ内密賣色致サセタレハ寤覚ノ期其渡世相除キ申可クトノ丁也

○當春難波新地殊ノ外賑ハシク觀セ物小屋數多軒ヲ並ブ中ニモ足藝トテ兩臂トモ無キモノ足ヲ以テ弓ヲ射或ハ琴ヲ彈ズ其餘種々ノ藝等ヲナシ見物群集ナセリソノ形状鳥カクノ如シ

○何國ノモノニヤ有ケン當春難波新地ニテ一ツノ屋形車ヲ率キ夜ハ其内ニ卧ス小兒ヲ一人連レ世ノ人竹二郎トカ異名ヲ喚ブ女アリ此者路傍ニアリテ手ニ八鼓ヲ鳴ラ

シ唱歌ス且ツ見物群集ニ及ベハ娼門ヲ出シ見セテ何歎懺悔スカクノ如クシテ投錢ヲ乞フ丁酉月計リ其擲錢數十金ニ及ブ是ヲ納メ猶近國ヨリ翫弄物ニ談スル者有テ連レ歸レリト云

宜ナル哉壯夫ノ娼情ニ放心シ數千ノ財ヲ投シテ失産破家ノ禍ヲ致ス斯ル路傍ニタイテ遙ニチラト其秘所ヲ見ルサへ惜マス錢ヲ投スル人情怪シムベシ又慎シム可シ

○英國留學ノ人ヨリ旧友へ送翰中種々新説アリ其二三ヲ摘テ左ニ舉ク

一我横濱ヲ出シヨリ各港ヲ概觀スルニ第一人氣ノ惡敷
 事言語ヲ絶シ驚入候憤懣不平我性質トハ申ナカラ
 言語不通ノ啞子ナレバ致方ナク唯堪忍ノ二字ニテ
 滞ナク着致候我皇國ハ開化ノ業端ナレバ第一固
 ノ國体ハ勿論凡俗敦睦ヲ失ハザル様コレアリ度人氣
 ノアシキト申モ唯金銀ノ事ナリ且凡土氣候ハ勿論
 草木物産等ニ至迫我皇國ノ右ニ出ルモノ世界中
 レナシ只餘リ萬事潤澤故情氣ニ相成ラント恐候外國
 ハ始終勉勵致サズテハ飢渴ニ可及氣候モ不順故艱
 生不致テハ死地ニ階リ申ヘク依テ我皇國ニテ石室

ヲ營ニハ第一空氣流動ニ注目可致ト察候

- 一世界中傳信機ノ會儀伊多利亞ニテコレアルニテ此方ヨ
 リハ辨務使附屬塩田某罷越候ヨシ
- 一支那ヨリ米利堅へ留学三十人出シ候由是ハ支那洋
 学ノ大学校中ニテ餘程相進候モノ、由是ヨリ支那
 モ遊学生ヲ出シ候趣承候
- 一龍動ノ壯麗宏大ハ難ク筆紙是ヲ瑠璃境ト云ンカ屋
 上ニ蒸気車アリ地底ニ蒸気車アリ種々無類ナリ
- 一英國ニテハ魯西亞セバストボール一件以後軍政改革致候
 趣是迄御親兵杯ニハ金満家ナド金ヲ出シ七官トナリ

是ヲ榮トシ候趣ニ候得共今度黠涉致候趣併英國ハ
四面皆海殊龍動ノ食物ノ輸入ヲ鎖セハ皆飢ルト云
フ依テ英國公國中、引受ケ戦争ハ決シテ致サズ
詔近キニ屈シテ遠キニ延ヒルノ形勢ナリ去印度共
他餘リ世界中ニ手ヲ伸ベ後故此上發食致候テ保護
不行届今ニテモ手ニ餘リ候位ト申事他日各処ノ領地
獨立可致ト申丁也

○支那國ヨリ身ノ丈ケ八尺ノ男當三月十六日神戸、着
岸シ居留南京人ノ方ニ止宿娑繪ヲ賣出シ一人前金百
足ツ、ニテ一見致サヒルトノ丁也十八日十九日廿日ハ例

年ノ通洋人等ノ競馬ヲ大男見物イタス節棧敷ヲ往々圍
ヒ彼ノ大男カ後姿ヲ一人前金ニ未ツ、ニテ見セソルヨシ
往々安直ニメ見物サスヘシトノ風聞也此人姓ハ伍名ハ
九支那徽州ノ産ニメ賤シカラザル者ノ子トル由年齢二十八九
歳先年佛國、モ渡リ国王ヨリ時計ヲ買ヒシトモアル由受
ニヨカシキハ伍九が同伴セシ妻ハ身ノ丈三尺位ノヨシ丈ケ
半バニ及バスシテ夫婦交接ノ障リニテラザルハ可怪トナリ

○當地御布令ノ寫シ
芝居真行差許候儀ハ徒ニ人ノ耳目ヲ喜バシムルタメナラズ
勸善懲惡ヲ旨トシ無学文音ノ者モ是ガ為ニ感動シ不

孝ノ見モ孝道ニ趣キ心ニ惡事ヲ揆ミ候者モ自然善道ニ帰シ候様成行候テコソ本意ニ可相適_ニ所近來_ニ裸ケ間敷仕組ヲ設ケ獨無益ノミナラズ大ニ弊害ヲ生シ若年ノ男女是カ爲ニ遊蕩_ニ淫惰_ニ流レ家業ヲ情_ヲ凡儀ヲ破_レリ候モノ不少哉、趣以ノ外ノ事候就テハ向後_ニ濫_レ間敷仕組於有_レ之ハ早速差留_レ此度_ニ嚴重ノ処置可_ニ申付条此旨相心得_レ前廣仕組ノ大意書ヲ以テ願出_レ許_レ可_レ受候上與行可致事

壬申三月

○_ニ親苗_ニ真_ニ親_ニ椿_ニ兼_ニ其_ニ外_ニ種_ニ類_ニ様々_ニアリ_レ之ヲ植_ルニ土地

ノ應スル應セザルアリ能ク教授ヲ得ヘシトゾ若_シ不_モノ地ヲ持テルモノハ授産所ノ願出_レハ培養_ニ教授ノ上_ニ苗_ニ下_ニケ渡_レラル、由代_ニ價_ニハ_ニ来_ル戌_年四月迄ニ上納スレハ宜シトナリ

○松鳴ニ元居ル所ノ娼妓_ニ數人_ニアリ今度_ニ所々_ニヨリ集ル_ル処ノ娼妓ヲ合シテ各其_ニ品_ニ位_ニ寄_リ格_ヲ三等_ニ分_テ上等_ニ花_ニ一本_ノ代_ニ新_ニ貨_ニハ_ニ錢_ニ中_ニ等_ニ六_ニ錢_ニ下_ニ等_ニハ_ニ四_ニ錢_ニト_ニ規_定ヒ_リ鳴_呼女子ノ容_ヲナキ_キ一_世ノ不_幸イ_カン_ゾヤ然_リト_ニ雖_ニ女_色ハ_ニ詩_文ノ_ニ如_ク好_惡必_ズ人_ニ繫_ルト_ニ下_等亦_ニ豈_捨ベ_ケニ_ヤ男_子モ_亦才_{アリ}テ_ニ窮_シ愚_ニメ_ニ達_スル_{アリ}

遊客耳食スルナクンハ又下等ノ幸ヒナラント云
○同所人形芝居ハ第一号ニ載セシ如ク正月ヨリ開業
セシガ大當リニテ五十日近ク興行セリ畢テ又三月廿
四日ヨリ大江山ニ二十四孝ノ出シモノニテ見物大江山ノ
山ヲナセリ

○當地ノ町人小野善助ナル者鹿兒嶋縣士族石川何某
ヲ雇入洋学教師トメ多分ノ月俸ヲ與ヒ番頭手代共ニ
至ル迄昼夜事務ノ間隙ヲ以テ學術勉強致サセ候由實
ニ今日ノ御主意ヲ奉戴シ開化ニ注意シ國ヲ為シ身ヲ
ナサント欲スル徒ハ家凡ノ仕來リニ泥ミ無用ノ下部

杯大勢駈役スル等ノ旧習ヲ速ニ一洗シテカ様アリ度
トナリ

○撰州東成郡天王寺村丹波屋安兵衛浅吉主人河内
屋もみ方ノ飼豚病死セシヲ何レノ寺院ヘナリト埋メ吳
タシト主家ヨリ浅吉ヲ以親安兵衛頼ミ遣ス所安兵衛
兼諾シ後凡ト心付豚ノ膏ハ傷処ニ用ヒテ切蝕アルモノ
ナレバ此豚モ土中ニ埋メヨリハ膏ヲトリ貯ヘ置バ後日
自他ノ助モナルベシト思慮シ膏ヲ取ル所ヘ大和屋龜吉
ト申ス者來リ死肉ヲ惠ミ吳タキ趣ノ談シヲ兼引シ一
足ヲ龜吉ヘ与ヘ自分モ食用シ又懇意ノ方ヘモ死豚ノ

月台五五
二反所前高二号
〇二

由ヲ明シテ差遣ハセシニ又人ニ送ルモアリテ其肉ヲ食シ
 六人マデ毒ニアタリ就中日本橋四丁メ近江屋繁藏弟竹松
 ト云モノハ忽チ命ヲ亡ヒタリトゾ病死ノ肉ハ齧グテ嚴禁
 ノ旨追々御布令モアリシニ此度ノ再行悪心アルニハアラズト
 雖モ不悖ナリトテ御処置アリヌル由安兵工托セラレタル通り
 早ク土中ニ埋メナバ此過チモナカルベキニ僅傷所ノ患ヲ救
 ハントテ人命ニカ、ワル失錯ニ出ル注意ノ深カラザル所カ
 可レ恐可慎右ハ心得ノ為メトテ御布告ニ相成タル由

因ニ云島暉高前年備前國通行ノセツ下津井吉田
 屋鹿藏トイヘル者ヨリ妙薬ヲ傳授セリ右ハ鰻魚ノ

毒ニアタリタルニ漆物用ニ致スガリヤスト六、ル
 枯艸ヲ水煎シ用フレバ忽チ吐瀉ニ及ビ平愈致ス
 是眼前經驗也世ノ人記憶メ鰻毒ノ病者ヲ救フ可
 シ且又豚毒ニモ切鉄有ベキヤ函家、談スベシ

ガリヤ区ハ何レノ繪具屋ニモアリ

一會社、一封ノ書ヲ投入セシ人アリ宛テ見ルニ第一号
 ニ載セタル横濱云々ノ條中安次郎ヨリ證文トスベ
 キヲ喜三郎ニ書誤リタルヲ心付ラレタリ誤字モ所ヨリ
 大體ニ拘ハルモノナレバ校訂最モ入念スベキヲ幸ヒ此人

マツテ粗漏ヲ補ヘリ封中姓名ダモ十ヶレバ爰ニ一辞
ヲ述テ其人ニ謝ス

大阪新聞弟二号

一當新聞一冊定價三錢五厘每月二號或ハ三號出版致
シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及ヒ諸品ノ賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ヒ物集會等引札
○失物尋物等ハ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等
右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十
錢三度分八十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五十年
大阪新聞

大阪本町四丁目

發行所

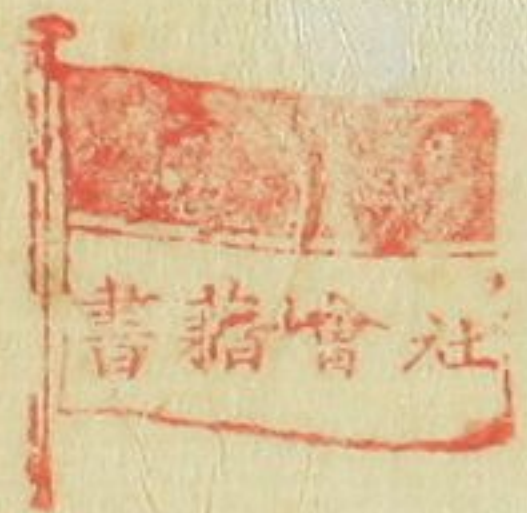
書籍會社

明治壬申四月

定價三錢

大阪新聞

第三號



緒言

今也新聞紙、世ニ盛行ハ、テ村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カン、トヲ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華、ニ未タ此舉アラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新開化ノ成世ニ負カサル、微
意ニ寄ルモノ也同志ノ諸君宜シク見聞、足ラ
サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレテハ社中ノ幸甚之ニ過ン

大阪新聞第三號 明治五年申四月

○東京日新堂新聞誌ニ云フ大阪ヨリノ來信ニ府下ニテ
此節天火見ル近キ間ニ災變アル兆ナリ惡説流傳ト云々
是ハ全ク虚説ニテ於當地右様ノ事更ニ無之カク無根
ノ流言ヲ書送ルワルモノ廣大ノ府下ナレバ有ルマ歎トモ
申シガタケレト災シテ無之トナレバ衆人ノ惑ヲ解カタ
メ今爰ニ書載ルモノナリ

○日新開化ノ世ノ有難サハ下市郷間ニ學校開ケ智識日
ヲ進テ進ム爰ニ北堀江四丁目阿波屋福松ト云者活業

藍玉ノ仲士ナルガ此者方今諸方ニ学校開成ヲ聞キ早
速町ノ長ナル宅へ趣キ何トゾ我町内ニモ学校ヲ設ケ近
邊ノ兒童ニ朝夕教ルヲ得ナバ其有益多カラシ我等開社
ノ雜費トシテ十回金出財致スベシト頼リニ勸ムコ、ニ
於テ町内一統其志念ヲ感シ此頃合議シ今相應ニ出金
シ急々其町邊ニ学校建営ヲ企アルヨシ嗚呼其日働ノ
躬ニテモ其出ス金ハ些少ナレト誠志人ヲシテ感動セシ
メ竟ニソノ基ヲ完クニ至ル賞スベキナラズヤ

○天王寺聖徳太子殿再建ニ付河州八尾明意上人并ニ
市郷講中志シヲ合シ當三月地築ニ取カ、ル市中ノ若君

講組中毎ニ一列ヲナシ色々ノ幟リヲ立テ或ハ緋或ハ
白ノ衣裝組毎ニ一様ヲナシ其形容美ヲ饒リ天王寺へ
群參ナス一率キモキラズ且ツ參詣ノ人々雲霞ノ如シ或
人ノ狂哥ニ

系信の幼くも湯の沸くあやぐりお律ととまをりあは

○傳ニ曰明意上人ハ河州八尾寺院ニ住原馬士ヲナシテ
業トセシニ感ズル所アツテ前上人ニ帰依シ竟ニ後住ト
ナル平常持齋木食ヲナシ且ツ暑寒トモニ單衣ノ無
欲一遍ノ僧ナル故歸仰ノ人多シト云

○當春紀州熊野那智山如意輪觀世音今宮海泉寺ニテ

月夜... 紀州熊野那智山如意輪觀世音今宮海泉寺ニテ

出宛帳冬詣ノ人々并ニ道筋掛ケ茶屋人カ車ノ往返駁

○當三月生王社内砂持ハジマリ其産地子ノ町々色々ノ
ツクリ物ヲナシ其賑ハイ謂ハンカタナシ

○當府下連々御改革アリテ市井ノ區分ヨリ戸籍ノ編
制大小年寄ノ人撰ナド有之去ル四月十三日ヨリ市中一般
寂寄ノ寺院ニ集メ毎朝知参事其席ニ臨ミ平生ノ心
得且ツ將來ノ方嚮ナド懇切ニ説諭アリサモ難有丁也
右参集ニハ唯一カノ長タル者ノ之呼出シノ処志アル
モノ共ハ妻ヤ子トモ追拜聴願出ルモノアリト云可賞丁

ナリ然ルニ間々ニハ心得違イタシ説諭ノ趣意ヲ聞違
ヒ此節ハ又色々ノ御法度ガ出テ嚴重ニナリハケ間ニク
ナル杯申觸スモノアリ是全ク平生安逸ヲ計ル惰情ヨ
リ起ル丁ニテ実ニ可笑可憐丁ナリト云

○今度松嶋ニテ是迄ノ施薬院ヲ驅徴院ト改稱セラレ
一ト際檢査ノ法ヲ嚴ニシ病根ヲ絶ツノ趣向アリ然ル所
新町山田屋長五郎抱女久栄ト云モノ其席ニ出テ便処
ニ行クト偽リ逃シニ段々説諭アリシヲキ入ズ其身
ハ勿論其母トモニ至テ強情ニツノリタトヘ死シテモ出
ル丁出キヌ杯申ニヨリ官ヨリ嚴重ノ御達アリ終ニ檢

查ヲ受ルコトナリ母モトモ入院セシナリ然ルニ日ヲ追テ快路ニ赴キ其上介抱方其外丁寧ナルニ感ジ母子共大ニ悦ヒ頗リニ先非ヲ悔ヒ役人ニ向ヒ最前ハアタ方ヲ鬼ノ様ニ思ヒマシタニ今ハ佛ケサマヨリ難有ゴザリマスト日々様ム様ニナリシトゾ近々全快ニテ退院セルヨシ

○大阪ハ元六十ヶ処計リ遊所アリシヲ減少シテ松嶋ニ一ト纏メニナスベキノ令ニヨリ段々引越シ次才ニ繁花ノ境トナル其境内ニ驅蕪院アルヲ諸街ノ遊女等名ヅケテ極楽ノ闇魔堂ト称スルトカヤ嚮ノ頃ヨリ検査ヲ嫌フ者共大ニ混雜シ遊女屋仲間ハ之ニ當惑シ検査猶豫

ノ願ヲ数々出セ共官ニテ聞届ケナク終ニ遊女ヲ三等ニ分チテ女郎藝者座着女トトシ女郎藝者ハ色ヲ賣ル丁故是非検査ヲ請ケ座着女ハ色ヲ賣ラザル者故検査ナシト云フサレ共坐着女竊ニ色ヲ賣ルトキハ其組中連坐ノ法ヲ以テ賣女トナスノ定メトナリシ由

評者曰世ニ毒藥ヲ醫ル者アレハ必ス之ヲ罰ス然ルニ梅毒ノ毒ハ独リ其身ニ留ラズ其子孫モ生レナガラニシテ其害ヲ蒙ムモノナレハ官ノ之ヲ制スル固リナリ然レ共其罪果シテ之ヲ賣ルモノニ有欲將タ買フモノニ有欲暫ク識者ノ定メヲ待ツ

○山城國紀伊郡東九條村浄土宗長福寺住僧誠阿トテ
 長髮長鬚ナル異形ノ僧當春西成郡南濱村明樂寺ニ寄
 宿イタシ念仏行者ト唱へ此頃阿彌陀ヶ池ニテ念仏修
 行ヲ始メタリシカ如何ナル絶世ノ功德ヤアリケン市在ノ
 老若男女打集リ鐘ヲ叩キ念仏ヲ唱へ參詣ノ者日々山
 ヲトシテ十萬億度ノ遠キ極樂モ足ララセズシテ今斯ニ參
 得タルノ思ヲナシ念佛ノ声近隣ニ響ク街説是ヲ稱シ
 テ木食上人活キ佛ト云講中ト唱フル男女數十人昼夜
 相從フテ寢食ノ世話ナドナスアリサ子ノ親ニ仕フルヨリ
 猶怨口ニシテ便所ニ行クモ獨行ヲ許サズ争フテ護送

スト云然ルニ去ル十八日右僧誠阿ニ講中ノ者共府廳
 一御呼立ニ相成リ弟一許可ヲ得スシテ猥リ二人ヲ集メ
 修行スル事又僧侶ニ似合ザル形体如何ノ事又怪異ノ
 修行宗旨ノ本意ニ背キ衆人ヲ惑ハス始末百端御詰問
 アリシニ唯一言ノ申開キナク閉口シテ終ニ恐入ノ書
 ヲ捧ゲシトゾ即刻京都府ノ御引渡シニ相成ル段仰渡サ
 レケレバ附添ノ講中ハ府廳白洲上ノ車ナレバ地獄ニテ佛
 ニ逢シ譬ニ反シ見離サレタル思ヒナリシニ種々其非ナル
 所行ヲ御懇諭アリケレバ孰レモ極樂暗路ノ夢醒テ文明
 世界ニ生ヲ衰ヘシ人トナリヌト云

明治五年
 大阪新聞第三号

○當地御布告ノ寫

方今天下遊惰ノ風ヲ去リ人々已レノガノニ食ムノ通儀
タルヲ知ルノ今日亦恐上 皇后ヲ奉始安逸ノ天道ニ非
ルヲ以御手ツカラ養蚕被遣殊ニ我國女教ノ未ダ開ケザル
ヲ以幼少ノ女子ヲ撰ミ萬里ノ海外ニ被遣候折柄當府
下ニ於テハ婦女子ノ夙習殊ニ惡敷紡織ノ道ヲ捨絲竹
ノ業ヲ車トシ安逸ニ年月ヲ送り候モノ、有之深ク痛
心ノ折柄左ノモノ共今度於授産所紡織相學ビ度旨願出
殊勝ノ至ニ候右ハ全ク當時 朝廷ノ御趣意ヲ奉シ
候次才ニ付小前末々ニ至ル迄能々一身ヲ顧ミ善ヲ聞

テハ速ニ移ルノ心懸ケ有之様為勸奨令揭示モノ也

壬申四月

- 長田作兵五妹 希少 拾五才
- 長田作之助姉 洋子 拾六才
- 加嶋屋林助娘 かつ 拾八才
- 桑谷屋貞郎養母 多み 三拾四才
- 長田作兵工下女 りり 四拾二才
- 鴻池屋秀次郎従才 才七 拾六才
- 全 岩三郎母 うき 四拾七才
- 全 伊三郎姉 ゆき 拾九才
- 山中善右門娘 あい 十一才
- 同 下女 やま 四拾八才

右令揭示候節左ノ二名書落シ候ニ付更ニ令揭示

○神ア、行旅スル當地ノ人隣家扇子屋ノ職人何某ニ
 倉卒託シテ曰何某カ小兒種痘セリ僕今日行李故ニ贈リ
 モノ意ニ任セズ因テ足下ニ委任ス足下ト僕ト二人ノ中
 ニシテ先ツ價金百足位ノ見込ナルタケ張込デ音物周旋
 致シ呉レラレト職人某諾シテ朱キ扇子ヲ立派ニ仕立
 持參セリトゾ誠ニ無学文盲ノモノ、イラサル警家威シノ漢
 語ヲ遣フ故カク取違セリ自他トモニ警戒スベキナリ
 ト云

○来四年澳國維納府ニ於テ博覽會有之御國ニ於テモ
 此會ニ被遊加列當二月市中、御布令有之物品差出候

者ハ官費ヲモ被立下候程ノ御趣意ニ付愛吝狐疑ヲ抱
 カズ見手本差出ス可キ也且ツ我邦ニテ下品ノ物ト
 イヘ氏亦彼國ニテ目新ラシク採用フル事アレハ強チ
 上品物ノミニ際ラズ既ニ幼童ノ手習用ニ致ス作ノ墨
 挾之外國人ノ眼ニトマリ數金ノ注文致セシトゾ推テ考
 フベシ

○新町南通五丁目大津屋佐助下人龜吉ト云ル者住吉
 社、參詣致度旨ニテ當三月十七日難波新地ヨリ人カ
 車ヲ雇ヒシニ同所三番丁酒屋藤兵五雇人秀吉ト云者
 則車率キ參ル途中ニテ実ハ伊勢參宮致シ度キ存志故

是ヨリ直グニ道中附添吳マジクヤト申ニジ秀吉モ兼テ
 参宮志願モ有之幸ヒノ事ト心得車ハ持主ノ相届ケ其
 俣附添行キシニ龜吉大金所持ノ体不審ニ思ヒ同廿日
 吉野町止宿ノ節龜吉住処委シク相尋考合イタス所全
 ク主家ノ金子持逃ケニ相違ナシト察シ内々飛脚雇入大
 阪龜吉主人佐助方ノ知ラセ伊勢地ノ早々追手差向ケ
 候様ノ手ハズ致セシニ案ノ如ク不埒ノ次才ニテ佐助方
 ヨリ追手ノ者先キ廻リ勢州宮ノ前ニテ出合連帰レ
 ル由右ノ始末雇人秀吉彼是心配行届候段奇特ニ被思
 召御上ヨリ賞トシテ貨五百錢下サレ且ツ右事件新高札

場ノ相揭示ナル

○方今何國トモ家号廢セラレ苗字トナル茲ニ一笑話
 アリ或近國ニ一在街アリ是迄ノ家号被廢姓ヲ名乗ル
 可シト里長ヨリ申達セシニ相應ノ身分ノ者ハ原来ヨリ
 姓名有之ト雖モ小前末ヤノ者ハ姓モ無ク又新タニ姓
 ヲツケンニ文字知ラズ皆々里長ノ参リ可然苗字御ツケ
 降サレト申参ル里長モ始メハ韻鏡ナドヲ以テ名附シニ
 追々多人数トナリ殆ンド困ジハテ後々ハ其者ノ業体
 ヲ尋子夫ニ應シテ姓ヲ名ツク一二ヲ奉ルニ一人業体
 荷ヲカツギ歩行ヲ業トナス依テ勝木ト附ル一人ハ又

明治五年申年

大阪新聞第三号

〇八

水挽ナリト云依テ大割ト名ツク一人雪踏ヲ賣ル依テ浦川ト名ツケシトゾ

○横濱新聞ニ同処常盤町二丁目水汲渡世菊次郎妻ト云夫婦ノ間ニ子ナキヨリ飼猫ヲ養ヒ寵愛スル丁我子ノ如クセリ然ルニ妻懐妊シ去三月上旬ノ頃一子ヲ儲ケシヨリ猫ノ寵愛モ日ニ疎クナリシ故畜生ナカラモ妬心ヲ抱キシニヤ赤子ノ寝顔ヲ幾度トナク白眼ツケシガ程ナク赤子死セリ又猫モ其日ヨリ行衛ヲ知ラズトゾ畜類ニ愛ヲ過シテ災ヲ醸セリ慎可シ

大阪新聞第三号

當新聞 刊定價三錢 毎月二號或ハ三號出版致

シ候數号五册引受壹割引十册以上引受候向ハ二割引二十册以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及ヒ諸品ノ賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ヒ物集會等引札

○失物尋物等ハ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局 敬白

明治壬申年

發行所 大阪本町四丁目 書籍會社

賣

弘

所

東京兩國若松町	日新堂
同日本橋川瀬石町角	村上勘兵衛出店
同日本橋二丁目	北畠茂兵衛
同芝三島町	山中市兵衛
西京東洞院三條上町	村上勘兵衛
同二条高倉西八	島林專助
大坂心齋橋第二丁目	松色九兵衛
同北久宝寺町四丁目	前川源七郎
同南本町四丁目	三木平七
同本町四丁目	梶田喜藏
同備後町四丁目	梅原龜七
同長堀橋第一丁目	貞部武助

明治壬申五月

定價三錢

大阪新聞 第四號



今也新聞紙ノ世ニ成ニ行ハレテ村老漁翁モ耳
 ヲ傾テ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
 經世ノ益ヲ聞カントテ樂ム然ルニ當時三府ノ
 中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉ヲラサルヲ歎キ
 今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
 方ノ望ニ達シ日新開化ノ成世ニ負カサルノ微
 意ニ寄ルモ也同志ノ諸君宜シク見聞ノ足ラ
 サルヲ助テ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
 ラレテハ社中ノ幸甚之ニ過シ

緒言

大阪新聞第四号 明治五年申四月

廿五日曉第二字頃東京本石町二丁目大通左り側ヨリ
 出火十軒店本町二丁目不殘室町三丁目迄燒失致シ弟
 五字頃鎮火ス

○四月廿四日大中少ノ年寄ヲ府廳ニ呼出シニナリ心
 得ノ書付讀聞セノ上左ノ二ヶ条申渡サレタリトソ大
 阪モコノ通ニ御趣意ヲ奉シタラハ速カラス昔ノ繁榮
 ニ復シ開化ノ域ニ進ムナラント心アルモノハ希望ス

明治五年 大阪新聞第四号

月台五申立 大阪新開萬口

ルナリ

海陸四達天成ノ美ヲ占ルモノ之ヲ天下ニ求ムルニ
恐クハ大阪ノ右ニ出ルモノナシ然ルニ今日日新ノ
景況東京ニ比スレハ三五年ノ前ニ居ルモノハ全ク
其天成ヲ頼ンテ人事ヲ盡サバニ由ル抑舊幕ノ盛
ナル天下諸候ノ多キ半ハ此地ニ出テ公務ノ費ヲ仰
キ其銀主タルモノ自ラ尊大ノ風習ニ慣レ居ナカラ
貸付金ノ利足ト扶持米ノ給與ニ安シ只管彼ヨリ来
ルヲ待テ遂ニ我ヨリ進テ取ルノ意ナシ東京ハ之ニ
反シ来ルヲ迎テ其好ム處ヲ察シ手段百出自ラ賤シ

クシテ進テ取ノ意アリ故ニ駭ニ開化ノ域ニ赴ク今
日ノ速ナルアリ是レ素ヨリ萬化ノ原ニ在ルニ由ル
ト雖モ人ニ進取ノカモ亦勘カラズ今ヤ大阪從前頼
ム處ノ諸候ハ既ニ廢セラレ天成ノ海口ハ土砂ノ為
ニ塞リ世上海運ノ便ハ日ヲ追テ開ケ是迄容易ニ人
ノ經過ス可ラサル紀難遠洋モ平地ノ如ク歐米ノ遠
キモ比憐トナルノ今日ニ至リ猶舊習ヲ固守スルハ
羊ヲ逸シテ猶窄ヲ守リ秋收了リテ案山子獨り立モ
ノ、如シ苟モ此理ヲ明ニシ早ク前途ノ目的ヲ定メ
進取スルノ意ヲ決セハ東京ニ凌駕スル期年ヲ待タ

月台五申立 大阪新開萬口

サル必セリサレハ今日ノ急ナル第一人心ヲ振作シ
大ニ海港ノ便利ヲ興スニアリ今管下ノ人民凡五十
餘萬トス其心ヲ一ニシカヲ海港ニ盡シ早晚越前敦
賀ノ鐵車此地ニ達スルヲ待チ物品ヲ市上ニ山積シ
巨艦ヲ海ロニ雲集シ果シテ山海運輸ノ權ヲ坐ナカ
ラニシテ掌握セハ今日ノ腐習ハ勞セスシテ開化ノ
域トナル試ニ十年前ノ神戸横濱ヲ顧ヨ一小村落ノ
農民漁夫僅ニ生産ヲ營ムノ地ノミ而シテ今日ノ勢
ヲ致スモノハ他ナシ内外運輸ノ權ヲ有スルニ在リ
サレハ今日時勢ノ變遷ヲ察シ衆心奮發衆カラ合シ

金アルヒノハ金ヲ出シカアルモノハカラ出シ天紅
ヲ奪フノ大業ヲ興シ祖先代ニ住ニ慣レシ住ノ江ニ
子ニ孫ニ榮華幸福ヲ受ケ永ク開化ノ民トシハ豈快
カラスヤ又樂カラスヤ

大 年 寄
中 年 寄
少 年 寄

國家ノ富強ハ人材アルニ由ル人ノ材器ヲ發達シ知
識ヲ開クハ皆文教ニヨラサルハナシ今ヤ
朝廷文部教部ノ二省ヲ被爲建候モ唯ニ天下ノ知識

月台五廿五
大阪新聞
大阪新聞第四号

ヲ関キ廣ク教化ヲ布カセラレタキ
思召ナレハ率土ノ濱ト雖モ其意ヲ體セサルヘカラ
ス况ヤ當地ノ如キハ古未ヨリ日本三都ト稱シ今三
府ノ一ニアリナカラ學校ノ設ケ手薄ナルヨリ人ニ
時勢ト道理トニ暗ク家業ヲ營ムモ眼前ノ利ノミニ
走リ動モスレハ失産破家ノ禍ヲ致サントス今東西
兩府ノ學校ヲ設ル其数一百ニ近カラントス故ニ教
化ノ道日ヲ追テ盛ニ知識ノ関クル月ヲ追テ進ム唯
我一府此企トク此終ニシテ日月ヲ送ラハ三都ノ稱
ハ名ノミニシテ終ニ蠻野ノ笑ヲ来サントス抑是迄

學文ノ弊タル花月ヲ翫ヒ詩歌ニ長シ候迄ノ事ナレ
ハ父母モ其子弟ノ書ヲ讀ムヲ嫌フモ理ハリナリ今
ノ學ハ是ニ異リ第一知識ヲ関キ行ヲ正シクシエハ
有用ノ良器ヲ發明シ商ハ彼我有無ヲ通シ時機ヲ察
シテ宜ヲ制シ利權ヲ他方ニ奪レサル爲ナレハ豈ニ
同日ニシテ語ルヘケンヤサレハ一同カヲ合セ大ニ
學校ヲ関キ今度改革ノ地區ニ從ヒ一區一校ヲ設ケ
區中ノ子弟ヲ集メ之ヲ教育セハ知識次第ニ関ケ土
地ノ繁榮ヲ致ス事必セリ凡人幼少ニシテ物欲ノ心
情未ダ萌サル内教ヲ加レハ戲レ遊ビ事ナス隙ニ自

明治廿五年
大阪新聞第四号

財源五
大防新
第四

カラ道理ヲ辨ヘ義理ヲ知り終身ノ福ヲ自然ニ備具
スルモノナレハ學校ヲ興スハ他人ノ爲トラス近キ
ハ一身一家ヲ保全シ土地ヲ繁榮ニシ遠キハ天下富
強ノ一端ヲ補助シ加之今日日用ヒニテハ區中ノ會
議所トナリ又或時ハ知參事以下出張シテ
朝廷ノ御布告ヲ始メ當府ヨリ申達スル次第等説諭
ノ場トナリ旁便利ヲ生シ候事故現今學ブヘキ子ナ
キトテ餘所ノ事ニ見做スヲ得ザルノ理アリ汝等此
度衆望ニ舉ラレ町役ノ任ニ膺ル上ハ速ニ前途ニ着
眼シ愚昧ノ小民ヲ誘掖懇諭シ建校ノ企今日ノ急務

タルヲ知ル一際盡力可致モノ也
○茲ニ可啗話アリ本月廿四日ニ支那人平野町ヲ通行
セシニ價金一朱計ト思シキ土偶ヲ求メ價ヲ與ヘズ立
去ントス故ニ價可償ヨシ應接シケレモ更ニ取合ス帰
ントシケル所ヘ折節巡邏卒廻達シ仔細會議シ日本ニ
テハ價ヲ不出物ヲ求ルヲナシト反覆言諭サレタレハ
金子持叅不致ト返答シ且謝罪ニ不及傍若無人ノ振舞
ニヨリ邏卒モ手ニ餘リ奪ヘシ彼半捧ニテ頭ヲ打撲セ
シガ支那人モ之ニ怯怖シ周章ノ体ニテ金ニ朱出シ置
逃亡ス實ニ淺猿行ヒヲ為テ遠國ニ恥ヨ被リタリト傍

月名
反所

觀者言アヘリ僅ノ支ニテ南京破タリト笑ワヌ人ヅナ
カリケリ

○

此度當御府ヨリ外国へ「ポンプ」數十挺御注文相成當節
渡来ナリ即チ御試アリシニ水ヲ數十歩外へ吹出シ其
勢ヒ大雨ノ如シ失火ノ節此機械ヲ以テ防禦アラバイ
カナル猛火モ消却疑ヒナシ府中人戸稠密不幸ニシテ
風ハゲシキ時ニ失火アラハ数千ノ屋宇蕩然一燼徒ラ
ニ屋宅ヲ失フノミナラス幾許ノ財本ヲ失フベキニ此
度カ、ル利器ヲ御買入ニ相成下民ノ守護ニ備ヘラレ

候ハ實ニ難有事ナラズヤ御慈愛ノ心推シテ知ルベキ
ナリ

○第二号ニ載スル所ノ伍九既ニ難波新地ニテ觀物ト
為シ新貨一錢六厘ノ見料ニテ此比盛ニ觀セシ處廿六
日午後ニ彼ノ伍九ニ彷彿タル異人見物ニ行ケルガ如
何ナル事カ支那人ヲ日本ニテ觀物ニ為テ後日ノ嘲モ
ハカリガタシトヤ耻辱ニ想フ様子ニテ伍九ト互ニ議
論喧譁ニ及ヒシ故大勢相集リ大騷動ニ成シト此喧嘩
ノ様子ニテハ其異人伍九ガ為ニハ太々懇切ナル者ナ
ラントノ噂ナリ何分大聲ヲ護ン彼國語ヲ以テ言合シ

其故日本人ニハ一切前後相辨ヘズト云

因ニ云此程神戸ニテ觀セシガ餘リ見料貴キニヨリ
見者少ク遂ニ瘵^{スダ}レリ後日支那人神戸見物ニ出ルニ
隨テ町中ノ者悉ク見タリ故ニ嚮^{サキ}ニ見シモノハ只管^{ヒタスラ}
貴キ見料ヲ費^{ツキヤ}セシト大ニ笑ヲ受タリトカヤ
又云伍九ノ妹ハ身ノ長六尺アリト珍敷^{チヌキ}血脉ナリ兄
弟ノ体俱ニ大ナレハ噓^{ウナ}何体モ大ヒナラン人ニ見シ
事ヲ希望^{キバウ}スルトノ風説セリ

船越町二丁目

内藤長兵衛悻

兄 長五郎

弟 友次郎

右兩人兼々機械^{キカイ}ノ窮理^{キウリ}ニ志厚^{ツク}ク此度水力蒸氣ヲカラ
ズ機械ヲ運轉^{ウンテン}シ糸ヲ引木綿ヲ織^{オリ}事一日ニ五六反ニ至
ルト云然ルニ此兄弟未ダ弱年ニテカ、ル事ヲ案^{アヒ}ジ出
候ハ可賞事ナリトテ父長兵衛ヲ始兩人ノ子供府廳ニ
召出サレカ、ル子供ヲ生ミシハ天ノ與^{ヨリ}ル仕合せナレ
バソノ仕合せヲ成就サセルハ人ノ勉^{ツト}メニヨルモノユ
ヘ早ク工部省へ出修行致サセヨトノ事ノヨシナリ今
其旨ヲ奉シ西洋人ニ付テ相學ハ、猶^{アマタ}幾多ノ發明ヲ得

ベキナレハ連々奮發良師ヲ撰ミ度事ナリ

○當地御布令ノ寫シ

醫藥ハ人生ノ存亡ニ係候儀ナレハ重大ノ次第ハ勿論ニ候所府下一般ノ醫家兎角藥品ノ精廉ヲ不撰一身ヲ尊大ニシ藥禮ヲ貪ノ風習有之仁術ノ旨趣ニ背キ無謂事ニ候然處先般緒方惟通以下二名ヨリ藥舖ヲ問キ藥品ヲ撰ミ資料ヲ公平ニシ診察料ヲ定ムルノ方法ヲ設施行イタシ度段願出候ニ付聞届候所此度別紙ノ通貧窮ノ者ハ診察ハ勿論藥品共施療治致シ度段願出殊勝ノ至ニ付是亦聞届候就テハ極貧窮ノ者ニテ病難ニ

罹リ療養致シ度候テモ其資用償フ術ナク不得止シテ治療不行届者アラハ伍人組頭並其所役人ハ申出ベク候尚伍人組頭郡ハ庄屋町ハ少年寄ニテ情實逐一聞糺貧窮相違於無之ハ庄屋少年寄證書ヲ添東大組弟十三區今橋通四丁目藥局へ可差出候右ハ全ク前件ノ如キ貧窮ノ者へ施候次第ニ付懇旨ニ甘ハ左程貧窮ニモ無之モノ猥リニ差出候様ニテハ不相濟候条庄屋少年寄伍人組頭等ニテ不都合無之様注意可致事右之趣管内無洩相達ルモ也

壬申四月 大阪府

明治五年三月 大阪新聞第四号

今般西洋藥局開發カイホツ 御免許被仰附難有仕合奉存候就
テハ 御國恩萬分マンブ、一ニテモ奉報度候間鰥寡孤獨
、如キ貧民、患者ハ診察ハ勿論藥劑ヤクザイモ施行仕度志願
ニ御座候間右等ノ者ハ少年寄伍長、添書持忝仕候様
御諭告中ニ御加被成下候ハ、難有奉存候此段奉同上
候以上

壬申三月

東大組今搦四丁目
精々舎中謹請
緒方惟通 印

大阪府
御廳

大阪新聞第四号

一當新聞一冊定價三錢 每月二號成ハ三號出版致

シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

- 新發明、巧器及ヒ諸品賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ヒ物集會等引札
 - 失物尋物等、勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等
- 右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分八十
錢三度分八十四錢ニテ引受出版致候

本局 敬白

明治五年三月 大阪新聞

明治五年申年 大阪新聞

發行所 大阪本町四丁目 書籍會社

賣

弘

所

東京兩國若松町	日新堂
同日本橋川瀨石町角	村上勘兵衛出店
同日本橋一丁目	北畠茂兵衛
同芝三島町	山中市兵衛
西京東洞院三條七所	村上勘兵衛
同二条高倉西八	島林專助
大坂心齋橋筋一丁目	松邑九兵衛
同北久宝寺町四丁目	前川源七郎
同南本町四丁目	三木平七
同本町四丁目	梶田喜藏
同備後町四丁目	梅原龜七
同長堀橋筋一丁目	間部武助

明治壬申五月

定價三錢

大阪新聞 第五號



緒言

今也新聞紙、世ニ盛行ハレテ村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カシメテ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉アラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ違シ日新開化ノ成世ニ負カサルノ微
意ニ寄ルモ、也同志、諸君宜シク見聞、足ラ
サレバ助ケ一瑣事、新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレテハ社中、幸甚之ニ過シ

大阪新聞第五号 明治五壬申五月

○當地御布令ノ寫シ

脱籍無産ノ徒ハ其舊籍ニ復サシメ適宜ノ産業ニ基カ
セ候様追ニ被 仰出モ有之右ハ全ク厚キ 御仁恤
御主意ニ付從來非人乞食ト唱候モノモ數百里ノ路程
多分ノ官費ヲ以テ復籍イタサセ夫ニ授産ノ法ヲ設ケ各
生活ノ道相立候様世話イタシ候ニ付テハ謹テ職業勉
勵以來御厄似不相懸様可心撰答ノ所却テ其苦ヲ厭ヒ
再三本籍ヲ脱シテ流民トナリ人ノ貨財ヲ盜ミ或ハ人

明治五年五月

ノ門口ニ立テ食ヲ乞フ事ヲ快ヨシトスコト且ニ可惡ノ至
ニアラズヤ其罪素ヨリ其モノ共ノ責セキニアリトイヘト
其弊害食物等與ル者アルニヨル凡人情乞食ニ物ヲ施
スヲ仁心ト心得タルモノ有之是其一ヲ知リテ其二ヲ
知ラザルナリ今身不幸薄命ニシテ盲目トナリアシナ
ハトナリ不得止シテ乞食ヲナス癡疾ノ者八十ガ一ニ
不過多クハ無賴放蕩ニシテ我職分ヲ勉ツトムル事ヲ不好
或ハ父兄ノ教育ニ背キ終ニ籍ヲ脱シテ乞食トナリ其
上教多ノ小兒ヲ生シ其見ハ生ナカラ食ヲ乞フヲ以常
トス實ニ人間ノ耻ヲ知ラザル甚敷モノニテ淺間敷事

トラズヤ試ニ見ヨ於當府盜賊召捕吟味ノ上ニテ八十
ニ八九ハ悉ク強健ノ乞食アリサレハ乞食ヲ救フハ
盗人ヲ養ヒ置クモ同理ニテ其弊害衆庶ノ難儀ト相成
候ニ付他籍ノモノハ送り出シ當管下ノモノ不幸癡疾
ニシテ其家ノ養ヲ受ベキ便リナキ者ハ其町其村ニテ
相養ヒ一切乞食ニ食物等ヲ與ルヲ禁ズ依テ向後嚴重
取締ノタメ掛ノ者巡回取調夫ニ生所へ引渡候ニ付テ
ハ左ノ条ニ可相心得事
右之趣管内無洩相違スルモノ也
士申四月
大阪府

一自今町村ニ於テ嚴重申合セ置乞食徘徊イタシ候ヨ
見受候ハ速ニ可追拂若緩カセニシテ其町村徘徊
罷在候歟又ハ食物等與フルモノ有之ハ見當リ次
弟其町村へ可引渡候間戸籍へ編入住宅其外養育方
世話イタシ候歟又ハ其町村ノ費用ヲ以生所へ差送
リ可申候然ル上ハ先方所役人ノ請取證書ヲトリ其
段可届出事

但引渡、上等閑ニシテ若脱走イタサセ候ニ於テ
ハ其町村へ尋方可申付候事

隣管轄境ノ宿村ニ於テ若乞食人入込候時ハ早速元

道へ追返シ決テ管轄内へ不立入様取締可致事

一無籍ノ者ヲ納屋下濱先并ニ村内野未端ニ等ニ差置

間敷若等閑ニイタシ置モノ於有之ハ其町村へ可引

渡候間第一條ノ通可取計事

但其町村爲便利戸籍ニ差加へ有之分ハ住宅等世

話イタシ遣シ乞食ニ不紛様可致事

一橋上橋下ニ起卧イタシ候乞食有之候ハ橋根町ニ

ニ於テ心ヲ附速ニ可追拂事

一先般非人ノ唱被癡候上ハ辻藝門芝居等賤敷遊業ヲ

以渡世致ベカラザル筈ニ付以未町村ニ於テ嚴重停

止可致事

一社寺ノ境内ニ乞食起卧イタシ候ハ、嚴重取締悉ク
追拂フベシ若等閑ニイタシ置ニ於テハ其社寺ノ可
引渡候条第一条ノ通可取計事

右條ニ堅ク相心得奉公人雇人等未ニ至ル迄其戸主
ヨリ嚴重可申聞置候事

士申四月

斯ノ開化ノ日ニ當リ人々其力ニ食ムハ勿論ナルニ
遊ホダシキ隋シ自棄ノアマリ終ニ身ヲ乞食ニ沈ノルモノ多シ
可惡事ナラズヤ此度乞食逐拂ノ御布令アリシハ遊

隋一掃ノ御趣意ト見ヘタリ然ルニ難有コトハ當府
下生レニテ不具ニシテ無告ノ者ハ知参事ヲ始メ諸
官負ヨリ救助出金アリ衆樂町ニ教育所ヲ設ケラレ
癩疾ノ者ハ却テ便タリヲ得タリト云此御仁政ニ倣ヒ乞
食ニ食物ヲ施タキモノハ右場所ニ差出シ度モノ也
○當四月廿日府下新町通四丁目銀鋪小田平兵衛方ハ
支那人一名相越新金貨ヲ紙幣ニ取換シ事ヲ乞フ然ル
ニ主人留守ニ付家内去づヨリ相断候處明日可相越ト
約シ退出翼廿一日前約ノ如ク相越候ヘトモ前日同様
ニ付家内ヨリ一應相断トイヘ紙幣極急迫入用ニ付

金貨五百圓包封、マ、預ケ置クベク間紙幣二百兩取
 替へ渡シ置キクル候様ト強テ希望ニツキ止コトヲ不
 得有合セ、紙幣種類取合セ好ミ、通、二百兩内渡シ取
 計遣退散後間ナク平兵衛滞宅情實ヲ聞キ金貨包試驗
 候處量目不足ニ付一統驚愕金貨持忝早速弟三區市中
 取締所へ訴出ニ付顛末御吟味、上相改候處上ハ包紙
 ハ正敷印刷ニテ封中ハ金ニハアラゲ銘ノ圓金形ノ贋
 物ニ付即時捕縛方手當相成同時外務課へ報告有之ニ
 付忽チ傳信機ヲ以テ神戸其外所々通信諸船發出差
 止等精懇索搜有之候處神戸在留同國朋友ノ方ニ潛居

マカリ
 罷在財生ノ所為ニ一決シ終ニ捕縛拷問杖笞ニ被及漸
 ヲ悪計及白狀候ニ付當府外務局ニテ入牢積惡等ノ餘
 罪吟味中、由必不目御國律ヲ以テ嚴科ニ可被行トノ
 風説路上ニ紛々たり呼悲哉彼國上古ノ法律ニハ道路
 ノ落物ヲ拾フ事ヲサへ禁シ見カヘル者モ耻辱トハシ
 文明國ナルニ何ゾ己ガ舊國ノ美譽ヲ主張スルノ心附
 モナク斯ル惡計ヲ逞シ人道ニ背キ異邦ニ譏ヲ遺ス事
 社實ニ哀憐ニシテ傷シキ哉乍去右等ノ奸曲迅速發覺
 就縛ニ及ビシハ天網難遁畢竟公廳ノ御政事向嚴重ニ
 シテ萬事御拔ケ目無ク文明開化ノ德澤ヲ蒙リ我人今

日ノ自由ヲ得テカ、ル奸盜ヲサヘ即時ニ捕縛安堵ノ
 御裁判ヲ受ルコト又々難有事ナラズヤ下併商家ノ主
 タルモノハ常ニ職業筋ニ勉強碎心都テニ注意シ家族
 共ヘモ能々教ルシ置前条疎漏ノ所置ヨリ起ル失却厄
 害ヲ費キ公廳ノ御煩勞ヲモ減省スル様アリ度事ナラ
 ズヤ

下恐以書付奉願上候

今日日新ノ時ニ當リ上ハ御國益ノ一端ニ奉供下一家
 利益ヲ計ル為メ事業創立イタシ度存候得共元來階

昧ノ私何分目的不相立日夜苦心罷在候處今般

御告示ノ趣奉謹承初メテ幾明畧前途ノ目的相分ノ實

ニ當地ノ盛衰一家ノ浮沈此御事業ノ成否ニ由リ候条

聊微力ヲ以テ御趣意ニ奉酬度奉存候間何卒御用批被

仰付被下候様奉願上候尤右御取懸リニ付テハ

御示ノ如ク衆カヲ全セズシテハ容易ニ成功難相成大

事業ニ付深キ御趣向モ被為在丈、御規則モ御定可相

成ト奉存候間宜敷御差圖被下候ハ、聊當時拾萬金ヲ

積置衆力ノ一ニ充テ且是迄舊諸藩ハ御用相立置候金

子大藏省ヨリ御下ケ金相成候節ハ猶此上相應ノ御用

明治五年申年

大阪新聞第五号

〇六

辨仕度奉存候間此段御開届被成下候ハ、眞加至極難有奉存候已上

明治五年申年四月

東大組第十二區今橋二丁目

鴻池善右衛門印

大阪府

御廳

御附紙

神妙ノ至聞届候迄テ文々可及差圖候事

右鴻池善右衛門今度御告示ノ旨ヲ早速相奉シ大金積置閑港御用相辨度願出ルハ成程日本蓄財家ノ巨魁ト

式打兎迄モ承知セシ事尤ノ次第ナリ然ルニ今度ノ御示シニ因脩ノ夢一覺シテ忽チ開化ノ魁ヲ占ムルハ所謂大鵬飛トキハ一舉シテ萬里ト云ベシ府廳ニモ定テ御褒賞ノ事ナラン此美舉ヲ見聞シテ他ノ金満家ハ勿論大坂ノ人民トシテ一日モ手ヲ袖ニスル事ヲ得ンヤ願書面ヲ熟覽スレハ府下ノ盛衰ハ全ク自家ノ盛衰トイフ頗ル廣大ノ氣象ヲ露ハセリ
〇中ノ爲五丁目木屋調兵衛ノ包金ヲ似セシモノ有リ探搜ノヤ、當府ノ官員出張アリユレヲ捕縛シテ歸ラレリ右ハ豊前中津郡長濱村岩松久次郎ト申者ノ仕

業ニテ木調包金ノ封ヲ剪放シ正金奪取跡へ銘ヲ截立
 入置又以前ノ如ク糊封ス其手際中ニ衆眼ヲ偷ニ足ル
 所為ノヨシ更ニ巧黠ノ手段ハ金谷渡場小包平次郎ト
 イフ字ヲ新ニ彫ラセ走レテ今割顛倒シテ神戸ノ町人
 金場小平次トシカヘ凡贗封ニ步判百兩包十七相製シ
 同國へ相弘メ候ヨシナリ極姦大悪天網ニ罹リシハコ
 、ロヨキ事ナラズヤ

覺

此度乞食共ノ内癩疾ノ者へ御救助被為在候御趣意柄

御仁惠ノ小ド深奉感戴候就テハ輕輩ノ私共御座候
 得共御趣意ニ基キ寸情ノ救助遣シ度心底罷在候處聊
 ノ儀自己ノ計ヒ方甚心配罷在候故テ誠ニ以テ申出共
 歎恐縮ノ至奉存候得ドモ少、寔出金仕度右御集金ノ
 端へ御差加へ被為下候ハ、本懐至極難有奉存尤此義
 同輩ノ者共へ響合候様ニテハ心中相濟不申候間夫等
 、儀可然御聞濟申出ノ趣相整候様不願憚此段奉願ニ
 候已上

四月晦日

出納課附屬

坂井有章

此度在府諸官負出金ヲ以テ乞食救助相成候處是ハ知
參事コリ十五等マデノ事ナリ等外ハ其數ニアラズト
イフ然ルニ此人等外ニ在リナカラ出金願出シハ善ヲ
聞テ能ク遷ルモノト云フベシ

○御發輦御軍艦ニテ大阪並ニ中國西國筋御巡幸被
仰出候事

但御道筋其他巨細ノ儀ハ追テ可相違事
右ノ通御布告アリタリ

大阪新聞第五号

一常新聞 刑定價 二錢 毎月二號或ハ三號出版致

シ候數免号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ二
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及ヒ諸品賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ヒ物集會等引札

○失物尋物等ハ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中ハ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十
錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五十四年
大阪新聞

大阪本町四丁目

發行所

書籍會社

賣

東京兩國若松町
同日本橋川瀬石町角
同日本橋二丁目
同芝三島町

日新堂
村上勘兵衛出店

弘

西京東洞院三條上町
同二条高倉西八
大坂心齋橋筋二丁目
同北冬室寺町四丁目
同南本町四丁目
同本町四丁目
同備後町四丁目
同長堀橋筋二丁目

山中市兵衛
村上勘兵衛
島林專物
松邑九兵衛
前川源七郎
三木平七
梶田喜藏
梅原龜七
貞部武助

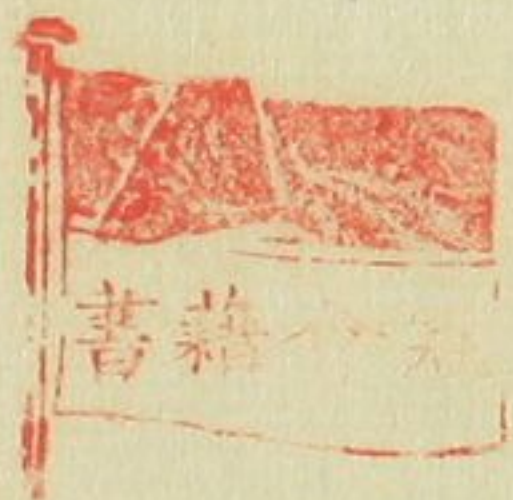
所

明治壬申五月

定價三錢

大阪新聞

第六號



緒言

今也新聞紙、世ニ成ニ行ハ、村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カン、一ヲ樂ハ然ルニ當時ニ府
中ニトリ我浪華、ニ未タ此舉ヲラサルニ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新聞化、成世ニ負カサルニ微
意ニ寄ルモ、也同志、諸君宜シク見聞、足ラ
サルヲ助ク一瑣事、新聞ト雖捨、勿ク寄贈セ
ラレトハ社中、幸甚之ニ過シ

大阪新聞第六号 明治五壬申五月

○府下ホリス、設ク有リテ以来夜不^{フニイ}腐^{カシキ}シテ熟^{シテ}眠^ルル
事ヲ得ハ、實ニ難有事ト^リ然ニ近未知^ル參事獨^リ立ニ
テ時々市街ヲ巡視セラレ細ニ下情洞察實見アルニヨ
リテ下評ニハ近比ハ何事モ御政事ガハケ問^クシクナル
トテ此ヲ稱シテ大ホリスト云フヨシサレハ鎖細ノ事
ニテモソノ目ニフレ取ニ入ラヌ事ハナキ道理ナレハ
愚ヲナス者ハ恐レ善ヲナスモノハ飲ベキ事ナリ
乍恐口上

明治五年五月

私儀

御當地ニ生産安穩度世相營御國恩ノ程冥加至極奉存
 候然ルニ今般御改正ニ付テハ追々御仁恤ノ御布令拜
 兼奉恐伏候就テハ去廿四日四組中少年寄被召出御告
 示御讀聞被下其上結構ノ御教諭乍恐奉感伏候右ニ付
 微力ノ私九一ノ御恩奉報度候聊手元ニ貯置候金五百
 兩御海港至大御入用ノ端ハ御差加ヘ奉願上候御聞濟
 被為成下候ハ、難有仕合奉存候以上

明治五十年

四月廿五日

北大組第四區

龍田町少年寄

京極與兵衛印

總區長

磯野小右衛門印

大阪府

御廳

御附紙

殊勝ノ至リニ付聞届候事

但シ出金ノ儀ハ規則相立候上可及差圖事

壬申五月

右ハ此度開港ノ御告示ニ感服シ出金相願候由時機
 ヲ々應シ着服早キ人トイフベシ新港成就萬船集恐

明治五十年

大阪新聞第六号

C-1

ラクハ速キニアラジ此等衆人ヲ鼓舞スルノ嚆矢ト云フベシ

○飾磨縣管下ノ松頭小松丸新平五月二日薪積登同四日吉野屋バシ邊通行ノ節三十計不見訓男ト風ト道連トナリ無何氣伴ト行シニ四十計ノ男途上ニテ革財布ヲ拾揚ルニ行掛リ様子見受クハ内ニ金八十兩ノ仕切狀躰ノモノ外ニ包金アリ彼男狼狽ノ体ニテ兩人ニ向テ申ニハ御覽ノ通大金拾取候へ共此先キノ取計イカバ致シ可申ヤ願クハ此事他ニ洩サズ三人分配イカシヤシト談スルニヨリ兩人ハ怒同意シ分配ノ場所ニ

約シ右證トシテ道連ノ男八兩ヲ出シカノ船頭十三兩ヲ出シ都合廿一兩拾ヒ主エ相與へ兩人ニテ革財布ヲ預リ途中ノ嫌疑ヲ避ントテ一旦其場ヲ別レシニ道連レノ一人イツノ間ニカ行衛知レサレハ始メテ不審相付キ財布改見ルニ附木五十枚計ヲ重子タル贖セ封ノ由此船頭慾ニ迷ヒ彼等ガ術中ニ陥リ金ヲ奪ハルノミナラス府廳ニ呼出サレ御吟味ニ相成リ多少ノ隙ヲ費ス金ハ奪ハル一舉兩損ト云ベシ

○ 中島新田
 鷺屋新田
 南新田

田中新田

市岡新田

泉尾新田

津守新田

今木新田

立賣堀北道四丁目備後屋喜六父喜西設起人ニテ外六
 名相結ヒ前書川西新田堤エ褚苗栽培ノ儀願出被差免
 當節植付最中ナル由當春以来勸業課ヲ設ケラレ大ニ
 府下人民職業成立ノ御世話アリテ是等有益ノ事件ハ
 何事ニヨラス御引立相成由種措追々相弘リ水流自任

ノ浪華ナレハ所々瀝場ヲモ相設クルニ至ラハ其利益
 想フヘキナリ

○世ニ居候ト云者アリ漢ニハ之ヲ食客ト云此輩織ヲ
 バ耕ヤサズ何ノ用ニモ立タス只他人ノ勤勞ノ一分ヲ
 乞テ糊コヲ為ス者ナリ斯ク卑シムヘキ者ニハアレド
 己レハ其卑シキコトヲ知ラサルニヤ禽獸又ハ畜生ナ
 ド、呼ブキハ奮然トシテ怒ヲ發セリ然レハ禽獸ハイ
 ツレモ自ラ奔走シテ糊コノ計ヲナシ未タ嘗テ同類ノ
 餘澤ヲ受テテ生活ヲ為ス者アラスサスレハ居候ナル
 者ハ其實禽獸ニモ劣リシ者ナリ嘗テ聞ク人ハ万物ノ

用古... 大坂新聞第六号

靈 或ハ禽獸ダモ為サバルノ行ヒアリ手淫男色
食容自殺是ナリト我輩以為ク既ニ食客ヲ為ス者ハ亦
必一手淫男色ヲモ為セリ何ソ併セテ自殺ヲモ為サ、
ルヤ此輩善ク自殺ヲ為サハ天下ノ為ニ一害ヲ除キ去
リ己レモ亦禽獸ニ如カサルノ名ヲ辱メスト云ベシ

日進學社購金錄

我川岬ノ造幣寮タルヤ古今未曾有壯大ノ建築ニシテ
百般ノ器械以テ精良ノ貨幣ヲ製ス其他分析精製所銅
貨鑄造所硫酸製造所硫酸室氣燈傳信機及鐵道瀛船ノ

設等悉ク具ハラザル所ナシ加之歐洲各國ノ人ヲ雇ヒ
其工業ニ使役セシム其景況恰モ小歐洲ノ省ヲナスニ
足ル今ヤ我輩職ヲ寮中ニ奉ス恨ラクハ洋學ニ暗ク質
問協議ノ際常ニ隔靴ノ感ヲ免ヘス因茲同身ノ者憤發
與起新ニ一塾ヲ開キ寮務ノ余暇師友ヲ會シ讀書勉勵
聊カ平日素餐ノ罪ヲ贖ヒ切ヲ他日成業ノ日ニ期セ
ト欲ス諸君子願クハ我輩ノ微志ヲ憐察シ塾舎經費、
為メ多少ニ不闕投金アラハ大幸ノ至リニ不堪他日英
才輩出國家ノ用ニ供セハ又諸君子ノ厚意ニ酬ユルニ
足ラン

日進學社

明治三十五年 大阪新聞第六號

○来月廿五日天満祭ニハ松島ニ於テ大花火ノ催シ
ルヨシ細工人ハ名ニ聞エタル伏見連申請負ノ趣ナレ
バ定メテ觀モノヲラントノ術説

○麩キ風邪ハ時日ヲ移サズ一度發汗スレハ葛根湯ヨ
リ遙ニ切能フルハ人々ノ能ク知ル處ナリ然ルニ其叢

汗スルニ多クハ卯酒又ハ麩物杯ヲ用ユルヲ其常トス

予モ素ヨリ年来此法ヲ用タルガ先日或人ノ話ニ發汗
スルニハ冷水ヲ茶漬茶椀一杯程ニ充ツ吞ミ加減ニ酢

ト砂糖ヲ和シ用ユルヨリ好キハナシ西洋人ハ皆ナ如
此スト傳授セリ怪シケレトモ物ハ例シナハ此比四

五度經驗スルニイカニモ其功偽リナラバ暫ク蒲團ヲ

カツキ横卧スレハ怒チ夥シク發汗ハ實ニ奇ト云ハシ

妙トヤ云ハン獨リ西洋人ノ治療ニ巧ナルヲ感シ且傳

授シタル人ヲ疑ヒシヲ耻タリ是等ハ聞ケタル人ヤ都

會ノ人ハ疾ク其法ヲ知ルト雖モ速キ田舎ニテハ未タ

斯ル簡便ノ治療法ヲ知シサルモ計リ難ケレハ今斯ニ

貴社ニ告ク願クハ我老婆心ヲ捨ズツテ新聞紙ニ記載

セラレ唯一篇而已ナラズ每号此件ヲ出シ玉ハ、幸甚

不_レ過_レ之敬白
北邊ノ野夫

右投書ノ儘記ス

因ニ云風義ニハ舶来「カミルレ」一味ヲ一帖トナシ
 初煎再煎ト煎ジ出シ相用ユ兩三日用レハ平愈
 スト云事ナシ是モ洋人ノ説ニシテ東京ニテハ專
 ハラ行ハル、ト云

○第四号一記載シタル市中每區ニ一小學校建營ノ御
 告諭ヲ奉シ此節其設ケ頻リニシテ已ニ三十四校モ建
 築ニ決シタリ猶月々出願陸續不日七十九校全備ニ至
 ルベシ是ハ當地御一新以來ノ大美事ナリトノ評アリ
 各區區長戸長ハ日夜此一件ニ周旋奔走其勉勵感スル
 ニタハタリ其中東十三區區長山行平右衛門ハ巨大美

麗ノ佳宅ヲ明テ渡シ區中ノ學校ニ用ヒントノ企アル
 由又祖先以來蓄藏ノ書籍數百部殘ル所ナク此學校ノ
 文庫ニ納メ左ノ告文ヲ出セリ又北十四區東十五區
 ハ歐羅巴風ノ學校建築企アリテ其費用ハ區長戸長ニ
 テ一時出財シ其成功ヲ遂ゲントス何レモ感賞スルニ
 餘リアル尽カナリト云嗚呼如此篤志ノ長ヲ戴ノ區中
 衆人幸福何事カ之ニ過ン蓋シ公撰入札ヲ以テ舉タル
 人ナレハ其見ノ高キモ又可感ナリ

告文

風ヲ遷シ俗ヲ易フルハ學ヨリ先ナルハ無シト今ヤ官

明治五申年 大陽新聞第六號

命アリテ毎區小學校ヲ設ケシム是子弟
 長シ品行ヲ正シクセシムルニ有リ教化ノ開キ
 隆ナル豈ニ感戴セザル可ケンヤ此感戴ニ當リ憤發
 盡カシテ子弟ヲ獎勵シ後末ノ基本ヲ立テマンハ將ニ
 何レノ時ヲカ俟ン然レトモ全區人貢ノ多キ其子弟ヲ
 シテ盡ク入校シカタク者ハ就テ書籍ヲ借リ隨意ニ讀
 マシメ且入校スレトモ書ナキ者アラハ借覽ヲ許サレ
 トス願クハ區内有志ノ諸君多寡ヲ論ゼス各所有ノ書
 ヲ同寮ニ納ノ小ヲ積テ大ヲテシ是ヲ不朽ノ物トセハ
 上ハ以テ 聖化ノ德ニ報シ下ハ以テ子弟ニ學ノ勸

ハルノ一端ナラシカ然レトモ敢テ諸君ニ強ユルニ非
 ラズ殊ニ其意ニ任ヌフニ請フ亮察セラレン事フ

區長

山行平右衛門

右告諭ニ應シ今稿四丁目戸長草間貞太郎址濱五丁目
 金井伊十郎ノ兩人モ和漢書籍西洋原書數十部ヲ納メ
 タリト云善ヲ聞テ忽チ遷ルノ氣性又可恃人ナラズヤ
 ○新聞雜誌ニ曰五月下旬 主上龍驤艦ニ乘御發碇伊
 勢神宮并神戸港赤間關長崎鹿兒島邊御巡覽御帰程四
 國大阪邊ヲ巡ラセラル、由御軍艦日進丁卯裝鉄孟春

攝津、雲揚、春日、鳳翔、筑波、ノ九艦不殘、護送諸官省ヨリモ
 官員數名供奉セラル、ト云ニ品川港ハ測量トシテ既
 ○東京ヨリ横濱迄ノ鉄道落成シ五月七日ヨリ瀛車運
 轉相始メ諸人ノ乗車ヲ差免サル、由乗車規則如左

鐵道列車發時刻及賃金表

金貨		上		下	
上等	中等	午後 四字	午前 八字	午後 五字	午前 九字
同	同	午後 四字 三拾五分	午前 八字 三拾五分	午後 五字 三拾五分	午前 九字 三拾五分
斤道		一圓		五拾錢	
同	同	五拾錢		五拾錢	

小兒四歳迄ハ無賃十
 二歳迄ハ半賃金小包
 胴亂ノ類ハ無賃其餘
 目方三十斤迄ハ二十
 五錢三十斤以上六十
 斤迄ハ五十錢九一八
 六十斤迄ニ限ル

一 當新聞 冊定價三錢 每月二冊或ハ三冊出版致

シ候數兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ一

割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニコッテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及ヒ諸品賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀セ物集會等引札

○失物尋物等ハ勿論田畑山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版

一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十

錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五年申年

大阪新聞

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

弘

所

東京兩國若松町

同日本橋川瀬石町角

同日本橋一丁目

同芝三島町

西京東洞院三條七町

同二条高倉西八

大坂心齋橋筋二丁目

同北久宝寺町四丁目

同南本町四丁目

同本町四丁目

同備後町四丁目

同長堀橋筋一丁目

日新堂

村上勘兵衛出店

北畠茂兵衛

山中市兵衛

村上勘兵衛

鳥林專助

松色九兵衛

前川源七郎

三木平七

梶田喜藏

梅原龜七

貞部武助

明治壬申六月

定價三錢

大阪新聞

第七號



緒言

今也新聞紙、世ニ盛行ハ、テ村老漁翁モ耳
ヲ傾、テ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カン、トヲ樂ハ然ルニ當時三府、
中ニトリ我浪華ノミ未タ此舉ヲラサハ、歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ、偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新聞化、成世ニ負カサル、微
意ニ寄ルモ、也同志、諸君宜シク見聞、足ラ
サレテ助ケ一瑣事、新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレハ社中ノ幸甚之ニ過シ

大阪新聞第七號 明治五壬申六月

○御布令

去四月以來十五歳以下、男女溺死ノ届七人ニ及ヒ是
全向暑ノ砌水遊イタシ從テ非命ノ死ヲ遂ゲ候儀ト深
憫然ノ至ニ候右ハ當人ノ不幸トハ申ナガラ畢竟兩親
教示ノ等閑ニ出候儀ニ付平日能々申聞セ不案内ノ場
所等ニテ水遊不致様屹度可相示事

壬申五月

○投書

新聞雜誌ト横濱新聞ニ郵便信書ノ遲着不達ヲ記載ス

月名五壬

大阪新聞第七號

ルコ見ル予思^{フモ}ラク郵便ハ飛脚屋ガ生活ノ為家業トス
 ルモト違^{タガ}ヒ僻境^{ヘキキヤハン}邊陲^{ソウ}迄モ自由自在ニ信書ヲ往復^{ワウフク}ス
 ル公私ノ大便利ヲ開カレ殊ニ堂々タル官貨ヲシテ取
 扱ハシノ玉ヘハ斯ル間違^{マカヒ}ノアルヘキ理ナシト疑ヒシ
 ニ此比懇意ノ者西京某エ一封ノ書ヲ贈^{ヲク}ルニ日数七日
 程ヲ過キ東京ヨリ届ケ来リテ終ニ信書ノ用ヲ辨セス
 ト云話ヲ聞ケリ是ハ畢竟所々へ信書ヲ仕分ル^{コンヤツ}混雜^ヨ
 リ東ト西トノ見違^{ミタガヒ}ニテ東京ノ部^ブニ入シモノナランカ
 ト判断^{ハシダシ}スルニ傍^{カス}ラノ人云ニハ東京ト横濱トノ間違^{マカヒ}ナ
 ラハ方角モ違^{タガヒ}ハサル故左程ノ間違^{マカヒ}トモ申シ難シ然レ

トモ東ト西トノ間違^{マカヒ}ニ至テハ往^{ユイ}テ復^{カヘ}ルノ方角違^{マカヒ}ナリ
 間違^{マカヒ}ノ甚敷モノト云ベシト詰^{ツクシ}リケレハ又傍^{カス}ノ人云世
 界ハ圓^{マツ}キモノナリ方角ナラス故ニ東ニ往^{ユイ}クハ西ニ往^{ユイ}
 クモ同一理ナリ何ソ往復^{ワウフク}アランヤト聴クモノ其理ニ
 伏セリ予モ亦大ニ感シテ郵便ノ間違^{マカヒ}モ一理アルヲ悟^{サト}
 レリト云々

○御布令

今般乞食^{フヒハラヒ}追拂^{ヒキカケ}ノ儀ハ全ク他籍^{ゴライ}無賴^ニノ者府下ニ漂流^{ヒキリウ}遊^ニ
 惰^ダニ安^{ヤス}シ其弊害^{ヘイガイ}不少^ニ人々力^{ツツ}ニ食^ハハノ御趣意^ニ戻^{モト}リ候
 ニ付嚴重及布告候通ニ候然ルニ當管下不具ノ者可致

月五申年 大防親臣第七号

入籍町慶無^レ之其家并親類ノ救^キ助ヲ可受便リナキ無告
者ハ慶^{ハイシツ}疾ヲ可^{アヒム}憐御趣意ニ基^{モト}キ官負一同出金ヲ以テ
救助致シ遣候条此旨一同相心得町々ニテ取調當管下
ノモノハ相違無^キ之慶疾ノモノハ其家寄々々出張所へ
早々可申出事

右ノ通御達相成リシ処御救ヒ受候モノ終ニ七八人
ニ不過ト云フ是ハ全ク手厚キ御沙汰ニ打驚キ夫々
町内ニ於テ世話致シ遣ス故カク少キヨシ是リ真ノ
慶疾無告ノ窮民トモ云ヘキナリ然ルニ全体府下ノ
風俗一時ハ嚴命ニ畏服シテ此度ハ一掃ニモ至リシ

ナレ共年月ヲ経ハ又候舊ニ復スルタメシ不少何卒
此節ハ乞食ニ一錢片食ヲ施スハ實ニ姑息ノ小惠ニ
シテ埒^{ラキ}モナキナリヲ悟リ永久此法相守リ人ノ容
易ニ乞食ニナラス様^{ヤツ}ニナルトキハ是リ大惠ノ至リ
ナルヲ知リタキモノナリ

○去ル十八日ノ夜天下茶屋近傍今官村ノ邊^{ホト}リナル畠
中ニ年齢三十五六歳ノ女惣身五十八ヶ所ノ痲^{キス}ヲ受テ
テ死シ居タル由街説ニハ此女ノ間夫^{マラトコ}ニ多助^ニハオト云
者アリテ深ク契^{チキ}リヲ込^コメ人目ヲ忍フ情ハ一層切ニシ
テ生涯互ニ他ヲ顧ミ間敷ヲ約シ交情益^{テス}深カ、リシニ

月五 申年 大陽新陰曆第七号

多助イツシカ他ニ情ヲ運フハ愛婦アリテ是カ爲我契
 情殆シド離断セラレントスルノ勢ナレハ前日ノ違約
 ラ怒リ且ツ妬ミ屢妨ケラナサントセシコトアリシ由
 故ニ多助奸婦ト相謀ツテ斯ク暴殺セシモノナランカ
 其夜ヨリ兩人トモ行衛知レサルトノナリシカ果シ
 テ街説ノ如ク廿一日堰ニテ多助ハ捕縛セラレ坂府ニ
 テ御亂問アリシニ同人仕業ノ由ヲ自狀シタル趣ナリ
 ○此頃心学道諸先生ヲ御雇ニ相成徒刑所ニヲイテ刑
 人ニ講釋聞カセラル、ヨシカノ先生勸懲ノ御趣意ヲ
 巷談俚語ニ取交へ懇切ニ説示スニ聽衆往々感涙ヲ催

シ本心ニ帰向ノ者モ不少兎角人情苦シキ時ニ當リテ
 ハ物ニ感シ易ク又感シタル事カ骨髓ニ徹スルモノナ
 レハ彼テ懲シ是テ導キ竟ニハ数多ノ反正人出来ルナ
 ルヘシ有カタキ事ナラスヤ或人ノ話ヲ斯ニ記ス
 ○浪華川寄造幣寮ノ盛大ナルハ衆ノ知ル所ニシテ毎
 日鑄造高ハ金貨拾萬圓余銀六萬圓余ニ及フヨシ外國
 長官ノ説ニ當時世界中日本ノ造幣寮ハ第二等タルヘ
 シト當節英佛「フロイス」ヨリ造幣器械澤山ニ着阪セリ
 此器械備附ニナラハ是迄ノ鑄造高ヨリ三倍ノ出来榮
 ラナスヘシトイヘリ此時ニ至ラハ宇宙内第一ノ造幣

明治五申年

大陽新聞第七号

〇三

寮トナルトノ_一也國家ノ爲ノ豈ニ賀シ奉ラサランヤ
豈ニ賀シ奉ラサランヤ

○造幣寮官舎^{クシヤ}ヲ日進学社ト仮定^{カヂマウ}シテ寮中ノ諸官員公務ノ餘暇タ六字ヨリ九字迄洋学ニ勉勵シ益田莊作ヲ社長トシテ現今生徒八十餘名等ヲ五級ニ別テ学費ハ奏任判任ノ官負ヨリ投金有ケルトソ井上大藏大輔殿右學社ニ臨マレ寮務ノ繁劇ヲ厭ハス各斯ク夜学ニ及_フヲ深ク賞セラレ学費金ノ内エ五十圓投セラレ尚一層勉強イタスヘキ旨生徒中へ欽命アリシトソ
但造幣助遠藤氏ハ先年英國ニ留学アリテ帰朝後モ

専ラ研究セラレ當春同氏發起ニテ一塾ヲ設ケ教授アリシヨリスル盛業ニ及ヒシトソ造幣寮ハ最モ繁劇ナルヲ同氏ト益田權頭ニハ毎夕生徒ト共ニ出頭セラレ寮中ノ官負奉テ一ケ年ヲ出サル内英佛人ニ對話スヘキヨウ致シ度トシ思慮ナルヨシ依テ兩氏相謀ツテ英人ノ教師ヲ雇入レ既ニ着阪イタセシトソ塾則日課ハ後号ニ出スヘシ
評者曰人ハ自然ヲ貴ハスシテ勉然ヲ貴フト勤学セサレハ道成ラス蒼生天性ヲ恃マスシテ此二三氏ノ意ヲ辭ヒハ今日ノ民タルヲ耻サルヘシト

○過日今橋通精々舎開局後道修町西洋薬下品、分ハ
 俄ニ其價下落シ原品所持ノ商人ハ之ヲ賣リ盡シトテ
 急クヨシ所謂頑夫モ廉ニ懦夫モ志ヲ立ルカ如ク本舎
 ニテ試檢法始リナハ粗品ハ自ラ賣レサルトノ恐レナ
 リ尤同舎ハ西洋人ヲ雇入ル、ノ由ナレハ此上教師未
 リテ試檢等ヲ始ルニ至レハ奉テ贖物地テ拂世医モ安
 シノ真薬ヲ得ルニ至ルベシ加之右社中ニテ施薬ノ願
 ヒニ由リ 御布告アリシ後ハ追々伍長戸長ノ添書ヲ
 以テ施薬ヲ乞フ由従来貧人ノミナラス間々医家ニ至
 リ寛態ニ治療ヲ受ケ遂ニ謝義ヲ爲サスシテ後偶途中

ニ於テ其医ニ逢ヘハ面ヲ背ケ世間ヲ狭クセン者アリ
 然ルニ同舎規則ノ如ク診察料薬價共取ルヘキハ之ヲ
 取り施ス一キハ之ヲ施シ公明ノ所置トナレハ追々右
 様世間ヲ狭クスル者モ止マルヘシ故ニ世医モ亦右ノ
 方法ニ倣ヒ専ラ仁術ニ志スコトフ勉ムベシ然ルモ其
 ニ贖造ノ害ナク医ニ卑劣ノ心ナク病人ニ無謝ノ耻
 ク大ニ開化ノ域ニ進ミ一大美事ト云フベシ
 ○去ル二十八日夕八字比
 聖上着 御 御端船運信丸ニ召サレ川口運上所前波
 止場ヨリ御上陸外務局ニテ御小休夫ヨリ御騎馬ニ

行在所 本願寺 御在ラセラレタリ兼テ御通行拜
見ヲ許サレタレハ此日老幼男女未明ヨリ街衢ニ充滿
奔走シテ炎暑エンシヨヲモ意トセスシテ着 御ヲ待テ奉リ皆
萬歳ヲ唱トナフ御通行夜ニ入ケレハ市中戸毎軒提灯テウチヲ出
シ或ハランプガス燈テウ點シ恰チカモ白昼ノ如シ翌二十九日
ニハ市民一統ヨリ 御安着ヲ祝シ奉リ永代演ニ於
テ打揚ケ花火ヲ催シタリ同晦日曉弟四字 御出輦ハ
軒家元和歌山縣邸前演ヨリ 御乗舟西京ニ 御巡幸
在ラサセラレタリ竊ヒソカニ此度ノ御行装ヲ伺ヒ奉ルニ萬
事至ラ御簡便カンベンニテ供奉ノ官負上下總テ六十余名ノ外

近衛兵二小隊、御警衛アルノミ恐レ多クモ
至尊ノ御身トシテ如此御輕装ケイソウニテ尚九州迄ニ御巡幸
在ラサセラレ親シタシク民ノ疾苦ヲ問ヒ玉フ御主意豈感
戴セサルヘケンヤ世間尊大ノ舊習ヲ襲フ人宜ク願
テ世ノ褒遷ニ着眼アリタキモノナリ
供奉ノ官負左ノ通
德大寺宮内卿 吉井宮内少輔 児玉宮内少丞
加藤弘之 池田宮内大録 櫻井宮内権上録
河瀬侍従長 醍醐侍従番長 高嶋侍従番長
堤侍従番長 堀川侍従 伏原侍従

月名 壬午 大反折開高 二号

西四辻侍従

東園侍従

北条侍従

米田侍従

片岡侍従

有地侍従

高城侍従

毛利侍従

太田侍従

澤長丸

堤龜丸

岩佐大侍醫

竹内権大侍醫

山川幸喜

岩井克俊

重見大監

目賀田大馭者

宮下中馭者

元藤清馨

樹下雜掌長資之

松尾雜掌相克

松波雜掌資之

宇喜田雜掌可成

櫻井内膳正

千賀内膳権大令史

三好内膳少令史

森力

金井往近

松本義路

田中膳部朗久

村上膳部光保

井関調度中令史

正院

西郷参議

日下部少内史

若森権少外史

式部寮

橋本式部助

大藏省

熊谷大藏少丞

陸軍

山縣陸軍大輔

西郷陸軍少輔

海軍

河村海軍少輔

高屋海軍少丞

御巡幸御道筋

大手御門ヨリ濱殿ニ御順路御乗船品海ニ於テ御乗艦
夫ヨリ 鳥羽 神宮御参拜 一泊 行在所文殿鳥羽大島大阪
御行在所 本願寺伏見京都 一泊 後日輪御陵御参拜伏見大阪 一泊
神戸御行在所縣廳 多度津 一泊 姫島 海滞泊 馬附 一泊 行在所見膳
長崎 一泊 熊本 一泊 鹿兒島 一泊 細島是ヨリ 還幸御乗
艦七晝夜過テ伊豆熱海へ着 御夫ヨリ海路御順次
還幸ノ事

大阪新聞第七号畢

一當新聞 刊定價三錢 毎月二號或ハ三號出版致

シ候數号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ一
割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニコツテ出版スル事件

- 新發明ノ器具及ヒ諸品ノ賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀物集會等引札
 - 失物尋物等ノ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等
- 右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版
一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分、十
錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五十年申年 大阪新聞

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

弘

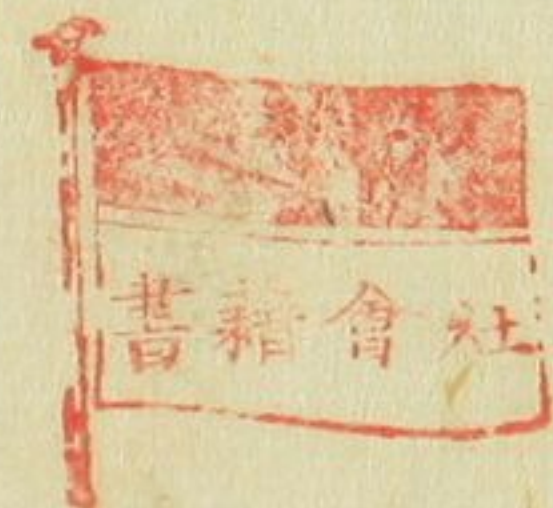
所

東京兩國若松町	日新堂
同日本橋川瀬石町角	村上勘兵衛出店
同日本橋一丁目	北畠茂兵衛
同芝三島町	山中市兵衛
西京東洞院三條上町	村上勘兵衛
同二条高倉西八	島林專助
大坂心齋橋第二丁目	松色九兵衛
同北久宝寺町四丁目	前川源七郎
同南本町四丁目	三木平七
同本町四丁目	梶田喜藏
同備後町四丁目	梅原龜七
同長堀橋第二丁目	貞部武助

明治壬申六月

定價三錢

大阪新聞 第八號



緒言

今也新聞紙、世ニ成ニ行ハ、村老漁翁、耳
ヲ傾テ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ニ基
經世、益ヲ聞カントラ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉ヲラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請ヒ新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新聞化、成世ニ負カサルニ微
意ニ寄ルモ、也同志、諸君宜シク見聞、足ラ
サルヲ助ケ一瑣事、新聞ト雖捨レ勿ク寄贈セ
ラレトハ社中、幸甚之ニ過シ

大阪新聞第八号 明治五年申六月

大阪船塢本町邊何某手代神戸ヨリ金子千五百兩所持
蒸氣船ニテ帰りガケ船中ニ於テ右金子紛失致スニ付
着岸ノ上其趣舟頭へ答置早速取締所へ申出候工ハ直
ニ^{ボリス}選卒五六人船中エ来リ^{タツサク}探索相成ル處敷物下ヨリ右
金子出タル由然ルニ十兩札一枚不足ニ付段々吟味相
成タル処乗組ノ中ニ年齢三十計リノ女アリテ此者ノ
シワガナラントノ見込ニテ唯今御調中ノ由
因ニ云入ノ^{スキマ}隙ヲ^{スミ}窺ヒ盜業ヲ働クノ徒素ヨリ可惡ト

月名

大阪新聞第八号

雖モ中ニハ盜ミ易キヨリ風ト出来心ヲ生シ誤ツモ
ノアルベシ如此ハ唯盜ムモノ而已罪トスベカラス
持主ニモ又廉漏ノ責無キ 能ハス願ハクハ大金或
ヒハ大切ノ物品ヲ所持スル旅客ハ宜シク注意シテ
我不取締ヨリ人ヲ罪ニ陷レ官府ノ厄害ヲ釀シ自身
ノ損耗ト相成ル様ノ事無キ様ニ致度モノナリ

○六月四日 聖上西京ヨリ午後第三字造幣寮へ 着御
アラサセラレタリ同日朝造幣器械 天覽畢テ大阪
府へ 臨御此日夕五字ノチ府下人民一統ヨリ櫻宮
祠外ノ堤ニ於テ打揚花火ヲ 天覽一備フ同六日鎮臺

并開成所へ 臨御此日角力共ヨリ願ニ依リ造幣寮花
園内ニ於テ角力ヲ 天覽ニ備フ組合セ五十餘組順ヲ
追テ勝負ヲ分ツニ又逢ヒ難キ場所ナレハ各生涯ノ力
ヲ極メ競テ勝ヲ奏セントスルニ立合待テナシトノ令
アリテ中ニハ意外ノ負ケヲトリ又頓ニ新工風ノ奇
手ヲ施シテ勝ヲトリタルモアリテ餘程面白キ勝負ア
リタルトノ説アリ猶同夜同所ニ於テ西洋曲馬ヲ
天覽アラサセラレタリト云同七日朝第六字 御發輦
同所門前濱ヨリ川舩へ 乘御天保山沖ニテ 御本艦
へ召サセラレ海陸祝炮ノ式アリ

明治五年 六月四日 大阪新聞第八号

○此度 御巡幸ノ御輕装ニハ衆庶意外ノ驚愕ヲナシ街上ノ評説虚實交喧シアルヒハ 至尊ノ威嚴ニ関ハルト云ヒアルヒハ真ノ 至尊ニハアラサルヘシト云ヒアルヒハ外國ニ對シ耻ルト云ヒアルヒハ不耻ト云ヒアルヒハ 至尊スラ如斯各分限ヲ顧ミスハアルヘカラスト云フ是ハ畢竟愚夫愚婦ノ妄説ニシテ取ルニ足ラサルナリ唯可賀ハ時勢ノ變轉ヲ知ラシメ真ニ耳目ヲ一新スルノ裨益ニシテ人民ノ幸福ヲ未タス御仁舉ト云ヘシ然ルニ斯ニ解セサル一事アリ供奉官貞或ハ兵隊ノ中ニ僅一二泊ノ用ヲナス旅宿ノ不都合

ヲハケ間シク云ヒテ不平ヲ鳴ラス人アルヲ聞ク斯ル難有 御巡幸ノ供奉中ニ如此人アルハ 諺ニ所謂燈ダイモトクラ臺下暗シノ理ニテ菓子屋ガ菓子ノ味ヲ知ラス醫師ノ不養生ト云カ如キモノカ貴社ノ高論ヲ乞フ 右投書ニ依テ記載ス

○當地閑成学校ハ當春以來何カ故アリテ英学生徒ノ入門ヲ停メラレタリシカ五月廿七日百人ヲ限リテ入學ヲ差許サレケレハ前夜第十二字前ヨリ生徒四方ヨリ集リ校門ニ市ヲナシテ或ハケツトナドヲ シカ 籍ヒカキ扣ヘ居テ門ノ閑クヲ待マテ皆先ヲ爭ヒ進ミシカ朝第六字比ニハヤ百人ノ數ニ充テ後レ至ル生徒五十人余ハ皆空

明治五 申年 大隈新閣第...

ク帰タリト云實ニ學問ノ道大ニ開ケ文明進步ノ世トナル國家ノ爲メ賀スヘキナリ

○五月廿九日富島^{ワカイモ}ベルリン^レノ汽船已ニ發セントスル時船掛リノ壯男^{ワカイモ}ソノ鄰家ノ船宿ノ壯男ト爭論ニ及ヒ互ニ罵^{ノシ}リ合ヒシカ稍^{ヤシバラ}少クシテ事收^マラントセシニ又鄰リノ男ヨリ惡言ヲ發セシトテ船ノ男大ニ憤^{イキホ}リ忽上陸シテカノ男ニ抓^{ツカ}ミ付キケレハ近鄰ノ人打寄リコレヲ和^{ワカイ}解セントスレドモ互ニ奮^{フシゲキ}激シテ挑^イミ合ヒ容易ニ近寄り得^カガル内鄰家ニ蓄^カヒラケル洋犬走り出テ夕チマチ脚ニ齧^{カミ}付シカハ双方不意ニ驚キ引キ分レテ爭論

ハ夫限リニテ止ミタリケレハ近隣ノ人皆犬ノ智ニ及ハサルヲ語り笑テ事濟ミタリトソ

○當地高麗橋東詰南側ニ電信局ノ建営アル由大阪府御布令

○葬^{ソウサイ}祭ノ儀ハ人生ノ大禮ナレハ小前末々ニ至ル迄各遺憾^{イカク}無之様其禮ヲ盡サシメ度^キ所僧徒^{ソウト}等自ラ尊大ニ構^カヘ乗物供連等寺格身分ヲ顧ミス大ニ潛上イタシ人ノ哀^{カネシ}憐^シ悲傷ノ機ニ乘シ不當ノ謝物ヲ貪リ候段以外事ニ候斯ル惡風有之候テハ身元不如意ノ者ハ孝子ニ其心ヲ盡ス能ハス深ク愍然ノ至ニ付向後潛上ノ所業

ハ勿論不人情ノ仕向於相聞ハ嚴重咎方可申付候条急
度相慎ミ下民ノ難決不相成様厚ク心ヲ用ヒ佛門慈悲
ノ本意堅ク可相守事

右ノ通寺院ハ相達候条一統相心得萬一違背ノ僧徒
有之候ハ、不問可届出候

○九ノ戸数人口ヲ統計スルニ聾啞盲癩四体不良ノモ
ノモ之ヲ人ト謂ハサルベカラズ竹籬茅屋荆門葦窠ト
雖モ之ヲ家トイッテ嫌ヒナカルベシ頃者大藏省編集
ノ府縣概表ヲ閱スルニ其初メニ全國中ノ人口戸数ノ
概表ヲ挙テ戸数、、、六十ノ軒余。人口、、、

九十ノ人余ト記セルモノハ如何ナル戸如何ナル人ヲ
以テ余外ノ部トナシテ計算スバヤ世間金穀ノ數ヲ
記載スルニ其極少ニ至テハ余ノ字ヲ用ユルモ戸数ノ
口ヲ算スルニ通用スベカラスコノ概表ノ如キハ別ニ
皇國中外ノ戸人外ノ人ナルモノアルカト疑思ノ中壹
人之ヲ解シテ云嚮者 官命アリテ穢多非人ノ称コ
廢シ庶人ト同視スト雖モ回襲ノ久シキ庶人尚蔑弄シ
テ與ニ交ハラズ今戸外ノ戸人外ノ人トハ此ノ如キ
類ヲ算スルナラズヤト回テ大ニ笑フ
○第四号ニ記載スル開港告示ノ旨ヲ奉府下ノ豪商競

立家産ヲ抛テ此事業ニ従事セン事ヲ希望スル者多クアル中二十人斗抽^ヒテ知事公ニ謁^ヒシ一同申合約束次第等逐一申上タル處速ニ告示ノ下ニ貫徹シ一同志シノ神妙ナルヲ歎バレ即時ニ左ノ和歌ヲ詠シテ賜ハリケレバ愈益奮勉ノ氣性増加セリト云フ

諸人の古^クをより令セ川^ヲひきよ^ク務^ムよ^ク國^ノの舟
 ○明石ノ舊留守居役ヲ勤^メシ大畠九十九ナルモノ當地ニ於テ名高キ奢モノニテ常ニ歌妓舞童数名相携ヘ金装ノ佩カヲ荷ガセ四方ニ徘徊自由ヲ極メ居シニ府廳ヨリ過ル廿七日妾宅ニ於テ召捕一ナリタリ彼妾宅

貯金諸道具夥敷有之就中刀劍入ノ簞笥三四棹有之名刀充滿シ其裝飾ノ美中々王候ニモ勝^リタルヨシ御不審ノ趣ハ分リ兼ヌレ共風説ニハ去未ノ税米六万石餘賣拂シ事件ノヨシナリ世ニ專ラ美奢ヲ極メルモノ數多アルナレ共多クハ一旦蹉^ケ蹶^ルアル時ハ身ハ刑戮^ニ係リ家蓄ハ殘所ナク禿^ク没^セテ寵妾愛兒モ忽チ流落ノ身トナリ其盛ナル時ニ當リテハ見ルモノ、欽羨セザルモノナシト雖モ事敗ル、ニ及ヒテハ面ニ唾シテ罵ラサルハナシ願ハタハ當時自由ノ權ト唱ヘテ我^レ終^ニ放蕩ニ日月ヲ送ル人々九十九ノ覆轍ニ鑿^シ詠^ハ樂^ハ苦^ノ

種苦ハ樂ノ種ト云意能々自反致シ度モノナリ

〇六月三日ヨリ難波新地ニ於テ西洋人曲馬ノ閱場アリ其奇巧輕捷人ノ目ヲ驚スベク初日ヨリ看客熱鬧ヲラント思ワレタリ

南大組第十三區

日本橋筋四丁目
鹿島屋安次郎借家

田中弥助

申百二戈

此度 御巡幸ニ付百歳以上ノ老人御詮儀有之古弥助難有モ 行在所へ召出サレ金千足下賜タリ此老人天壽

ノ高フ得ルノミナラズ 聖世ニメグリアヒ廣大府下又一人 巡幸ノ下ニ於テ斯ル賜ヲ受レハ余程幸福ノ人トイフベシ

〇先比天神橋辺ヨリ上川筋へ舟行ノ便利ヲ表シテ水尾筋ニチヤン塗リノ小桶ヲ數百浮メラレタリ舟渡世ノモノハ暗夜ト雖モ通路ヲ辨シ其利ハ勿論ナリ或説ニ獨水尾筋ノ為ノミナラズ深キ御趣意ノアル事ナラシ是迄川浚へノ弊トシテ唯ニ近傍ノ人目ニ觸レ易キ処計リヨ堀リ兎角遠近一様ニ手ヲ盡サヌモノナリシニ此印出来ノ上ハ手入ノ精廉モ一見シテ分ル事ナレハ

狡黠ノ手段ヲ真々ノ内ニ防クノ妙計ナラント云

○六月二日晝四字比ヨリ鎮臺造兵司器械場出火アリ
早速市中消防人数駈付タリシニ筋金門ニテ鎮臺兵卒
制止シテ云フ市中ノ消防人ハ市中丈ケノ事故助カニ
及ハズトテ一人モ門内ニ不入^{マウレツ}猛烈ノ炎烟天ヲ衝^ツク勢
ヲカノ消防人等ハ門外ニ佇ミ見テ在ル計ナリシニ其
処エ大阪府役員出張押テ踏込丈付ソイ入込事ヲ
得テ五字比鎮火ニ相成リタリ借前号ニ出ル今度御買
入ノボ^レンフモ御試ミ有シニ輕便ニシテ大ニ功ヲ奏セ
リト云門卒消防人ヲ止ル事ナクバ早ク鎮火ニモナラ

シニ幾万金ノ器械ヲ風烟ニ付セシハ可惜ニアラス

右投書ニ因テ記載ス

○

御披露

浪花織

- 一 西洋^夏服地
- 一 男女帯地
- 一 羽織袴地

一 トッコ入織物

但染色模様等ハ御好次第出来仕候

右品々極上糸ヲ以テ織立極テ下直ニ賣捌申候彼ノ播
筑京博多ト唱ルモハ勿論本筑前博多織ヨリモ爲方

明治五年申年

大阪新聞第八号

ヨロシク候四方、君子品價、精良奇機、精工等御覽、上多少ニ限ラズ御注文被成下度奉希候以上

大阪北堀江通五丁目

織元大三輪長兵衛

大阪新聞第八号甲

當新聞 月定價三錢

毎月二號或ハ三號出版致

候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ一割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニコツテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及ヒ諸品ノ賣買弘札 ○店開新規賣出ノ觀七物集會等引札

○失物尋物等ノ勿論田畑山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中ハ編入致度候ハ、一度出版一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治五年

大阪新聞

明治五十年
大阪新聞

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

弘

所

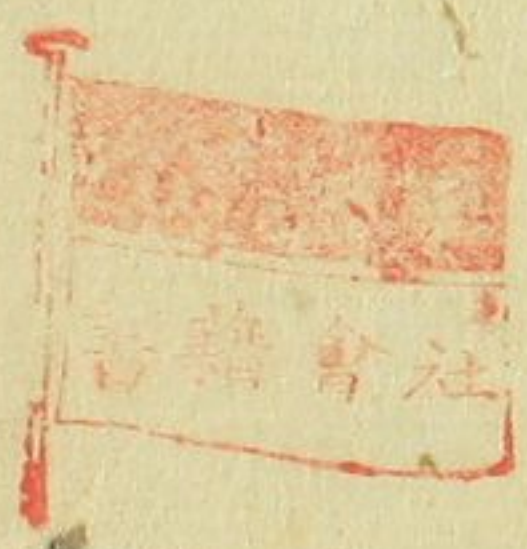
東京兩國若松町	日
同日本橋川瀬石町角	村上勘兵衛出店
同日本橋一丁目	北 畠 茂 兵 衛
同芝三島町	山 中 市 兵 衛
西京東洞院三條上町	村 上 勘 兵 衛
同二条高倉西八	馬 林 專 助
大坂心齋橋第一丁目	松 色 九 兵 衛
同北久宝寺町四丁目	前 川 源 七 郎
同南本町四丁目	三 木 平 七
同本町四丁目	梶 田 喜 藏
同備後町四丁目	梅 原 龜 七
同長堀橋第一丁目	真 部 武 助

明治壬申七月

定價三錢

大阪新聞

第九號



緒言

今也新聞紙、世ニ盛行ハ、テ村老漁翁モ耳
ヲ傾ケテ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國ノ基
經世ノ益ヲ聞カントテ樂ム然ルニ當時三府ノ
中ヒトリ我浪華ノミ未タ此舉ヲラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請此新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新開化ノ成世ニ負カサルノ微
意ニ寄ルモノ也同志ノ諸君宜シク見聞、足ラ
サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨、勿ク寄贈セ
ラレトハ社中ノ幸甚之ニ過ン

大阪新聞第九号

明治五年申七月

○教法宗門ノ儀ニ付建言

宗門ノ事古今内外其害不少而爰法家学士議論スル處
最多シト雖モ未タ能ク是ヲ壓絶スル者アルヲ聞カス
終ニ米利堅ノ捨テ不問ヲ以上策トス然レモ是亦止ラ
不得ニ出テモルモン宗ノ如キ倫ヲ乱シ俗ヲ壞ルモ如
何凡スル不能ニ至レリ伏惟
御國古來ヨリ神佛ノ外宗門禁絶ニテ其害少シト雖モ
佛氏初テ東漸スルノ時厩戸皇子蘇我氏等ニ依附シ竊
ニ貴權ノ威ヲ盜ミ以テ己レカ慾ヲ逞フセリ爾後數百

年治乱幾回時世變遷スレ_レ其貴權ニ依附シ下民ヲ誑ウラ惑シ己レカ慾ヲ逞フスル_レハ未曾テ變スル_レナシ鴨

氷山法師

帝意ニ任セス三河ノ一揆武將モ不能壓況ンヤ地方ノ官吏都鄙ノ下民其毒ヲ蒙ル勝テ言フ可カラス諸藩各國ニ割據シ管内ヲ專制スル時スラ且佛氏ノ縉紳家ノ威ヲ傲リ横恣ヲ逞レフスルヲ苦シムハ人々皆ナ知ル所ナリ

御一新ノ際 朝威更張カウチウ群怪迹ヲ潛メ佛氏亦其爪牙ツツガヲ収メ柔順猫兎ノ如シ加之時運文明ニ進ミ匹夫匹婦モ

漸其奇怪妄誕ヲ信スル_レ無キニ至ラントス然レモ佛氏ハ尚隙ヲ窺ヒ好ニ投シ僧ヲ汰スルモ敢テ拒寺ヲ廢スルモ敢テ不_レ辞口ニ勤

王ヲ唱エ面ニ柔順ヲ飾リ大ニ其慾ヲ逞セント欲ス始メハ邪教ヲ防クヲ以テ名トシ漸諸官省ノ重職ニ迫接

朝廷開化ヲ求サセラルルニ急ナルニ投シ洋行スル者ノ世ニ貴重セララルルヲ知テ

大使発船ノ頃ニ當リ外教探索ケンサク又ハ宗學修業ト唱ヘ枉テ従行ヲ願ヒ暗ニ貴權ノ心ヲ攬トントス其内地ニ留ル

明治五十年 大陽新聞第九号

者ハ更ニ愚民説諭ヲ名トシ己ニ其許^{キヨカ}河ヲ得テ諸國ニ
 巡廻シ竊ニ無智衆民ノ心ヲ奪ントス然リ而シテ先般
 神祇省ヲ廢セラレ教部省ヲ置カレ其令五ヶ條一ニ曰
 社寺廢立及ヒ祠官僧徒等級^{トウキウ}格式^{カクシキ}等ノ一ニ曰新ニ祠
 官ヲ置キ僧尼ヲ度スル一三ニ曰教義ニ関スル著書出
 版免許ノ一四ニ曰教徒ヲ集會シ教義ヲ講説シ及ヒ講
 社ヲ結フ者免許ノ一五ニ曰教義上ノ訴訟ヲ判決スル
 事皆同省エ可伺トノ事四月三十日又令アリ曰教義関
 係ノ事件ニ付キ神官僧侶等へ達ノ儀ハ教部省ヨリ其
 教導職管長ヲ以テ直ニ可相遠候右等ノ事件ハ神官僧

侶ヨリモ其教導職管長ヲ以同省へ可申出トノ一夫レ
 神官僧侶ノ事教義ニ関セサル者ハ希ナリ而テ其教義
 ハ都テ地方官治下ノ民事ニ関セサル無シ然ルニ地方
 官ハ是ヲ紛轄是非スル一無キ時ハ何ヲ以民心ヲ定一
 シ風化ヲ宣布スヘキヤ管内ノ人民心ヲニニシテ地方
 官ノ令ヲ輕ンシ管内ノ神官僧侶ハ教部省ニ直達スル
 ヲ時ンテ地方官ヲ凌ク一此令ヨリ起ラン前ノ五條其
 一社寺廢立祠官僧侶等級格式モ地方官評論スル能ハ
 ス民政ニ害アルモ害ナキモ不関唯彼等自ラ為ス俟ト
 ナラン其二新ニ祠官ヲ置キ僧尼ヲ度スルモ彼等自ラ

勸メ自ラ撰フ処トナラン其三教義ニ関ル著書地方ニ
 妨ケアルモ夙化ニ障アルモ無問彼等、欲スル処トナ
 ラン其四教徒ヲ集會シ教義ヲ講説シ及ヒ講社ヲ結フ
 者、其説地方ノ令ニ不合モ土地人心ニ流毒スルモ地
 方官非議スルヲ能ハス直ニ教部ノ許可ヲ以テ驕然主
 張スルニ至ラン且ツ多端煩細ノヲ教部省是ヲ取捨ス
 ルノ暇アランヤ其五教義上ノ訴訟ノ事實地ノ事情奸
 曲百出詐譎百端ナルヲアランニ地方官ヲ不經シテ教
 部豈能シ其實ヲ得ンヤ况ヤ亦民心ニ關係シ人民是ニ
 連累スルヲアラントキ神官僧侶直達シ終ニ遙々東京

ニ往復シ職業ヲ妨ケ民事ヲ害スルヲ無キニシモ非ル
 可シ右ノ五條四月三十日ノ令ニ依テ己ニ地方官ノ関
 セサル處トナリ其弊害恐ル、ニ餘リアリ殊ニ教導職
 ヲ置カレ其等級上ハ議長大輔大將ニ列シ下モ判任ニ
 下ラス京都府管内ヨリ其既ニ撰任セラル、者先ツ一
 ニヲ擧テ論セハ智積院弘現ハ寺内ノ沼ラサルヲ以府
 廳ヨリ遠出ク留メ糾弾中ノ者ナリ兩本願寺ハ管内人
 民ヨリ負債幾十萬其内數十年久シキヲ経返濟ノ約ニ
 違ヒ金主ハ終ニ貧困為ス事無キノ苦シミニ陥リ府廳
 ニ訴出ル者連々ナレ左支右吾年月ヲ遷延シ却テ擧

族ノ列ヲ辱シ衣食住ヲ始メ家令徒者多人數ヲ養ヒ驕奢尊大ニ居リ人ノ貧困ヲ不顧如此者ニシテ教正タラハ其教ヲ受ル者亦如此シテ可ナラレ乎又五月四日教部省ヨリノ達シニ曰三月十四日當省置レ候以來四民ノ内僧侶得度及ヒ歸俗住職經目等總テ出願ノ向ハ其地方官ニ於テ事實詳細取調當省へ伺之上可請差圖トノ下夫得度住職等ハ教義ニハ關セサルカ九其宗意ヲ得可キ者ニ非サレハ得度セス教義ヲ知ル者ニ非レハ住職ス可カラス是教義第一ノ關係ニ非ル乎然レハ則前令ト齟齬スルニ似タリ又數萬ノ僧侶小々ノ寺院モ

盡ク教部ニ不同ハ得度住職ヲ不得其煩雜可想且詳細ノ取調ハ地方官ニテ己ニ為之ハ教部ノ差圖ハ何ノ為ナル教部ノ差圖アル事ナラハ地方官取調ハ又何ノ為ナルヤ况其教義關係ノ下ハ僧侶等直ニ教部省ニ申スル下ヲ得ルニ於テヤ聞ク教部省ニ近頃僧徒等登庸ヒラレ官員ニ列スル由佛氏ノ百方計策シ根ヲ固クシ蔓ヲ長セントスル下知ル可シ而シテ其弊害ノ最深且大ナルモ亦可思可憂或人教部省官員ノ說ヲ傳ヘテ曰神主モ開化ヲ講シ僧侶モ開化ヲ説キ以テ王政ノ御趣意ヲ貫徹スト是匆率一時ニ用ユル詭計ニシテ文明進

歩ノ今日ニ用ユルニ非ス神官僧侶ヲ假ラサレハ開
化行ハレス 王政貫徹セサルトハ実ニ可歎ノ至リナ
リ況ヤ却テ開化ヲ妨ケ 王政ヲ害スル者ニ於テヤ
近頃海外諸國宗門ノ弊害ニ懲リ以太利亜王羅馬法王
ノ權ヲ殺キヒスマルク務メテ宗徒ノ政事ニ関スルヲ
黜ケ僧ノ僧ヲ撰舉スルヲ禁シタリト聞ク今ヤ開化策
進ノ秋ナリ妄誕怪異ノ宗門ヲ捨テ人民ヲシテ事理ヲ
辨エ人職ヲ盡シ文明ノ域ニ入ラシムルニ是レ可務ノ
要タリ人民正ニ文明ニ進ミ佛氏ノ妄誕ハ捨テ採ラサ
ラントスルニ却テ官ヨリ僧侶ニ命シテ教正等ノ職ニ

任シ崇信ノ標トナサハ人ノ明ニ向フヲ更ニ誘フテ暗
ニ入ラシムルカ如クナラン將タ 御國ハ方今事務多
端費用莫太ノ時ナリ速ニ無用ノ誤事ヲ除キ無益ノ費
用ヲ省キ有用ノ事ニカヲ盡シ有益ノ事ニ財ヲ用ユ可
シ不信妄誕ノ宗門ヲ保護シ小社ノ神官小寺ノ僧侶等
迄ヲ指揮進退スルハ堂々タル官省ノ急務ニハ非サル
可シ且其事ニ從フ官員ノ月給ヲ始費用実ニ莫太ナル
可シ又僧侶等外國ニ航スルノ費用モ是ヲ官ニ取ラサ
レハ必ス民ニ取リシナラン彼等自ラ其カヲ以テ賤ヲ
生スル者ニ非ス必ス巧言門徒ヲ誑誘シ其膏血ヲ絞リ

明治五十年 大阪新聞第九号

シ賤ヲ欺キ取り是ヲ都下ニモタラシ己レカ驕奢ニ費
 シ海外ニ齎ラシ己レカ巧言誇張ノ用トナス試ニ春來
 佛氏ノ事ニ費ス 公私之賤ト公私ノ午数ト時間トヲ
 以テ是ヲ國家必用ノ道路ニ開キ学校ヲ建テ職業ヲ教
 エル等ノ事ニ用ヒハ豈一廉ノ大益ヲ興サ、ランヤ抑
 亦宗教ハ終ニ人民ノ撰フニ任セ萬一外國ノ宗教内地
 ニ入ルヲアランニ如此内ニ佛教ヲ興隆シ宗派凝固セ
 シムルハ各宗相争フヲ釀スニ非レハ人民ヲシテ多
 岐ニ感ハシムルナリ政府ノ人民ヲ教育誘導シテ共ニ
 國家ヲ保護維持スルヲ豈誑妄虚誕ノ宗門ニ依頼ス可

ンヤ仰願クハ

大政府深ク此ニ注意シ妄誕ヲ未タ盛ナラサルニ黜ケ
 患害ヲ未タ萌サ、ルニ防キ斯民ヲシテ速ニ蒙昧ノ惑
 ヲ解テ文明ノ域ニ進マシメハ普衆庶ノ大幸ノミナラ
 ス 御國永世、大幸ナラン茲ニ地方事務ノ障碍ヲ論
 シ國家將來、患害ヲ慮リ憂苦ニ堪エス書言ヲ盡サス
 言忌諱ヲ顧ルニ暇アラス細大請瞭察誠恐謹言

五月十八日

右ハ

京都府ヨリ正院へ建言ニ相成タル由傳聞ノ傳記載ス

英人某ノ語ニ大阪ハ道幅狭ク又高低多クシテ車ノ往來ニ便ナラス歟ル商法ノ盛ナル都會ニハ甚々不似合ナリ此道ク改正センニハ車ノ稅ヲ高クトリテ普請ノ費用トセハ上下共ニ益ク得ルト多カルヘシ併シ稅金ク高ク掛ルトキハ乘車賃金モ隨テ高價ナル理ナレハ便利ナラサルヨウナレトモ譬エテ云ハンニ今高麗橋ヨリ人カ車ニ乘リ川口マテ行クニ一字間ク費シ車丁カ壹歩ノ賃クトルヘシ然ルニ今又車ノ稅ヲ増ストキハ三四倍モ増賃ク貪ルヘシト雖モ乘人ハ得心シテ其

増賃ヲ拂フ理アリ如何トナレハ諺ニ時カ金ナリト云如ク商法ナトハ半字四半字ノ争ヒニテ多分ノ損失ヲ生シ又働キ人ナトモ同様一字隙ヲ費セハ一字間ノ損アリサレハ道路平直ナレハ車ノ廻轉速カニシテ車丁モ勞ナク時間モ費エス是迄川口マテ一字テ達スルハ半字ニテ達スルトナレハ壹歩ハ一兩ノ増賃トナルトモ詰リノ勘定ハ廻轉ノ速ニシテ時間ノ費エサルヲ貴フト或人ノ語ヲ記載ス

○新聞函票告

我社 官許ヲ得テ新聞帑發閱以來幸ニ四方之望ニ適

ト毎號數千部ヲ頒送スルニ至ルハ偏ニ諸君子之助ニ
因ルモノナリ然ルニ此地ノ如キ大都會ニシテ毎月僅
々タル二三號ノ刊行ヲ以足レリトスルハ當社ノ大ニ
愧ツル所此般申合奮發興起今一層ノ盛大ヲ圖リ隔日
ニ發閱セント欲ス冀ハ大方之君子事之細大ニ拘ハラ
ス各所之奇事新説ヲ書キ集メ此函ニ投入シ耳目之及
ハサル所ヲ補ヒ社中之素志ヲ助ケ給ハ、幸甚豈之ニ
過ン

壬申七月

書籍會社

右之新聞函ハ高麗橋心齋橋ノニヶ所ニ設置ナリ

一當新聞一冊定價三錢 每月二號或ハ三號出版ス

シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候句ハ二

割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

○新發明ノ巧器及ヒ諸品賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ヒ物集會等引札

○失物尋物等ノ勿論田地山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等

右之外便宜ノ事業冊中へ編入致度候ハ、一度出版

一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件二度分ハ十

錢三度分ハ十四錢ニテ引受出版致候

本局

敬白

明治壬申年

大阪新報

發行所

大阪本町四丁目

書籍會社

賣

弘

所

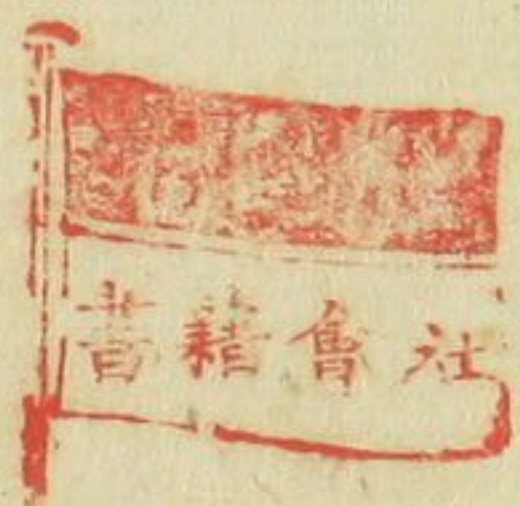
東京兩國若松町	同日本橋川瀬石町角	同日本橋一丁目	同芝三島町	西京東洞院三條上町	同二条高倉西八	大坂心齋橋筋一丁目	同北冬室寺町四丁目	同南本町四丁目	同本町四丁目	同備後町四丁目	同長堀橋筋一丁目
日新堂	村上勘兵衛出店	北畠茂兵衛	山中市兵衛	村上勘兵衛	島林專兵衛	松邑九兵衛	前川源七郎	三木平七	梶田喜藏	梅原龜七	貞部武助

明治壬申七月

定價三錢

大阪新聞

第十號



緒言

今也新聞紙、世ニ成ニ行ハ、村老漁翁、耳
ヲ傾テ新説奇事ヲ聞キ知識ヲ研キ富國基
經世ノ益ヲ聞カシテ樂ム然ルニ當時三府、
中ヒトリ我浪華、ミ未ダ此舉テラサルヲ歎キ
今回官許ヲ請シ新聞紙ヲ刊行スルハ偏ニ四
方ノ望ニ達シ日新開化ノ成世ニ負カサル微
意ニ寄ルモ、也同志ノ諸君宜シク見聞、足ラ
サルヲ助ケ一瑣事ノ新聞ト雖捨ル勿ク寄贈セ
ラレテハ社中ノ幸甚之ニ過シ

大阪新聞第十号

明治五壬申七月

○

木津川筋堀江ヨリ松島へ渡ル所ニ中央自在ニ開闔シ
大小ノ舟船帆柱ヲ立テナガラ通行自由ナル新橋出来
予代寄バンシト名付ラレ當月廿日知參事衆渡リ初、相
濟タリ外國ニテハ此等ノ橋ハ數多キ事ナレ共
本邦ニテハ未タ此舉アルヲ聞ズ當地木津川、如キハ
萬船蟄集ノ川筋ナレバ橋有テハ舟行ノ難儀トナリ又
如従前舟渡ニテハ道頓ボリ難波新地其外川東、モノ
大ニ不便利ナリ今此名橋ヲ設ケラレ水陸ノ便一舉両

明治五壬

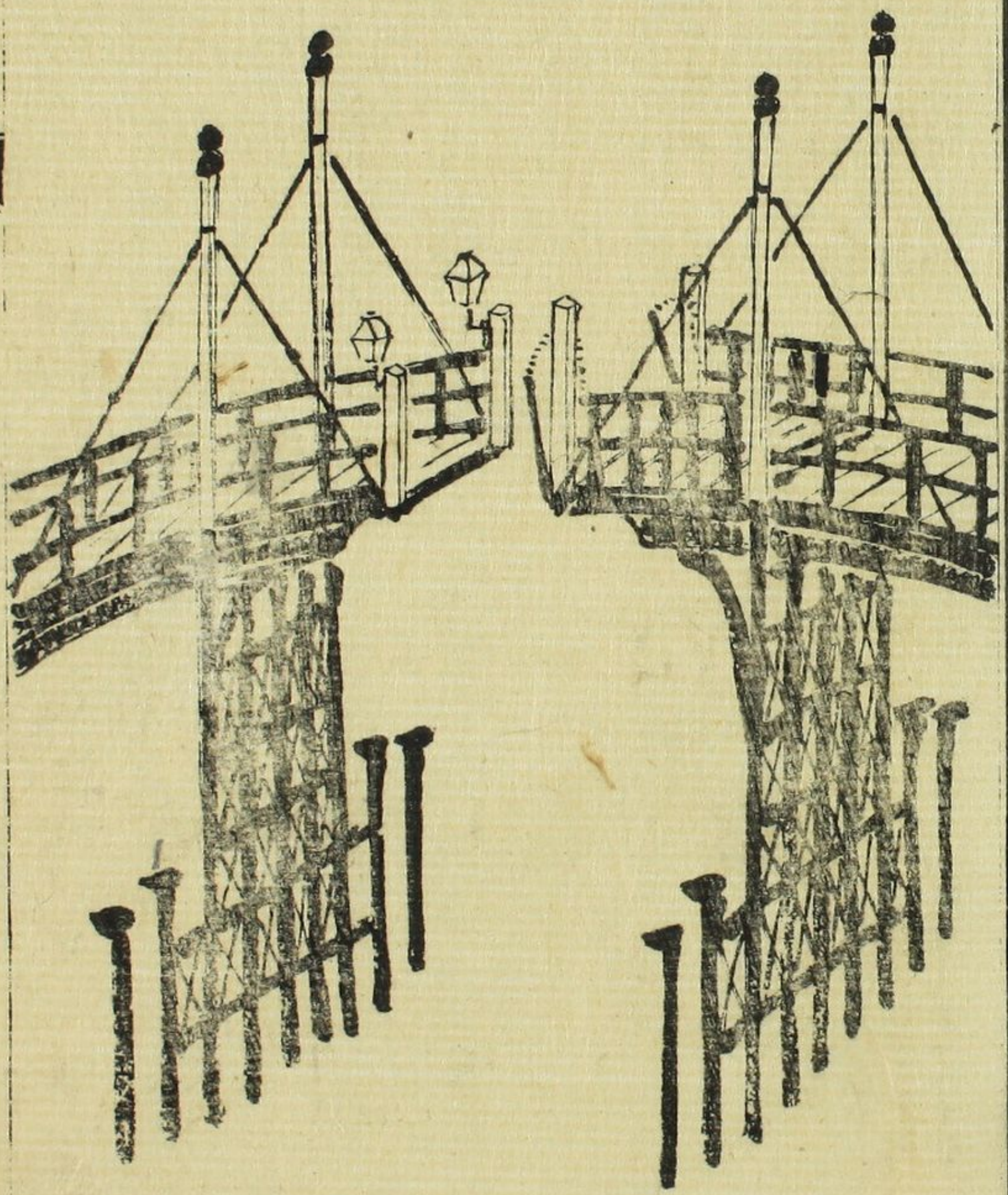
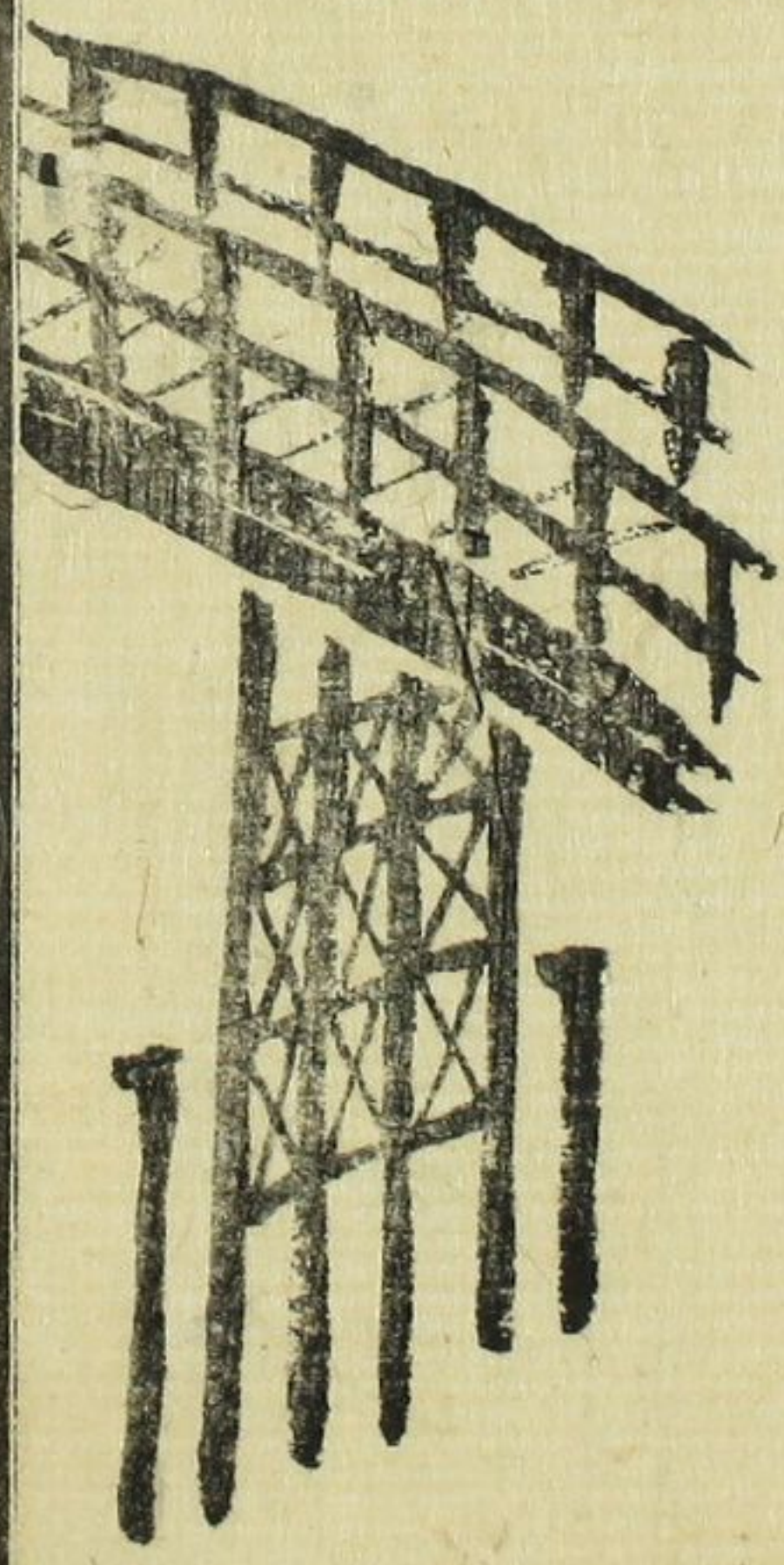
年

大阪新聞第十号

〇

全トナリシハ世ノ開クルニ隨ヒ橋亦隨テ開ケ橋ノ開
 クルニ付テ人民ノ便利一ト方ナラザレハ追々頑固ノ
 風習モマタ次第ニ開ケルコトニナルベシト街説大ニ
 高シ願ハ蔡襄サイシヨウカ萬安橋ヲ架セシ時紀功ノ大碑ヲ起セ
 シタメシニナラヒ高碑ヲ橋側ニ立テ萬世ニ光耀アラ
 ン事望ム所ナリ

橋長三三間 橋幅二丈二尺
 欄干高三尺 橋臺二丈
 ソリ九尺 中央開六尺



○ 尔忍奉願候

今般於區中小學校御取開ニ相成候ニ付而ハ先達ニ豊國社御建營ノ儀奉申上候次第ニ付御懇諭、段厚キ思召ノ程奉感銘候依之右御入費ノ内へ頭書、通御差加相願度御採用被成下候ハ、重疊難有奉存候以上

壬申六月

金千両

鴻池善右衛門印

金千両

廣岡久右衛門印

金千両

長田作兵衛印

金七百両

長田作五郎印

御附紙 尋問ノ旨趣ヲ奉ジ殊勝ノ至ニ付聞届ル事

右ハ此四名ヨリ曩ニ豊公ノ社宇建營ノ為献金セシヲ出願セシニ先日府廳ヨリ左ノ尋問書ヲ御下ケ渡ニ相成タル由因テ忽チ可レ盡力時効カヲ悟リ右ノ通出願セシモノト見エタリ善ヲ聞テ速ニ移ルノ良心在天ノ神靈モ社宇建立スルノ歡ヨリ十倍ノ歡ヲナシ玉フヲナルベシ尋問○豊公ノ社宇建立ノタメ先頃献金ノ願殊勝ノ至既ニ戊辰ノ笈 仰出サレモ有之義ナレハ速ニ取懸リ可申處退而豊公ノ雄志ヲ考ルニ今日天下日進ノ秋ニ當リ巨萬ノ費ヲ以テ社宇ヲ創建スルハ府

下人民ノ為廣益ヲ圖ル一助トナスニ如ズ抑モ府下ハ
 豊公創業ノ地ナリ然ルニ日進ノ景况天下ニ後レ候而
 ハ如何程社宇ノ善美ヲ盡候モ却テ在天神靈ノ意ニ矣
 候ハ必セリサレハ曩ノ献金ヲ以今度一區一校ノ資ニ
 充テ進歩ノ一助トナサバ神靈ノ歎亦知ベキナリ就テ
 ハ時勢ヲ顧ミ緩急ヲ察シ今日ノ急ナルヨリ順序ヲ追
 テ年ヲ下サバ社宇ヲ宏壯ニスルハ他日必ラズ其時ア
 リ決シテ宿志ヲ空敷スルニハ無之奈能々相顧ミ見込
 ノ異同令尋問モノ也

去ル二日暮過永代濱橋伊兵衛ノ居宅へ邏卒兩人入り
 来リ伊兵衛呼出シ詮議ノ趣有ルニ付帳簿等可指出旨
 威勝^{イカッ}ケ間敷申聞カセリ然レモ伊兵衛ニ於テハ詮議受
 クヘキ心當リモ無ケレトモ現在取締役人ノ事ナレバ
 辭スルニ道ナク鎖^サ鑰^{ヤシ}ヲ啓キ差出シケレハ帳面ニハ目
 ヲ不懸^{ヒタスラ}只管金ヲ探ル様子ニ驚キ密ニ下人ヲ取締所へ
 馳セシム途中巡邏ニ出逢其趣申達セシカバ邏卒即刻
 彼家ニ至リ見ルニイカニモ邏卒ノ躰ナリ不審トハ思
 ヒナガラ卒爾ニ年モ下シ難ク姓名等詰問^{キツモン}ノ内売人ノ
 者刀ノ柄ヲ握リ身構ヘヲナシ売人ハ矢庭ニ所持ノ棒

ヲ以打掛リ憤激突戰數次ニ及ビ終ニ壹人ハ取押ヘ壹人ハ透ヲ伺ヒ逃去レリ捕ハレタル者當節御調ベ最中ノ由風説

評者曰府下數百人ノ邏卒晝巡夜邏不審ノ者アレバ忽チニ捕糺ス竊盜跡ヲ掃ニ庶シコ、ニ於テ盜却而捕午ニ擬シ市中ヲ眩惑ス巧術詭智至ラザル所ナシ恐ルベキ事ナラズヤ雖然察其顔色覩其眸子人何ゾカクサンヤ人ニ對スルニハ尤モコ、ニ注意スベキ事ナリ然ルニ世間如此巧術ノ惡徒ニ欺カレ賊ヲ掠メラル、者アリテ我不注意ハ省ミズ却テ官府ヲ惡シ

サマニ云モノアリ是大ナル誤リニテ本書伊兵衛ノ心ヲ用ユルガ如クナレハ我財寶ヲ全フスル而已ナラス他日此賊ノ為人ノ巨害ニ羅ルノ患ヲ除ク餘程ノ良心ト云ベシ

○浪華謠

或人ノ作

浪華津ニ咲ヤ此花ト王仁カ歌ヨリ都ト開ケ彼漢士ノ子ガ住里モ今ハ魚鱗ニ建チ並フ民ノ竈モ賑ヒテ空ニ棚引煙コソ千里ノ末ノ國々ヨリ朝夕入来ル蒸氣船龍動巴里斯モ咫尺ニテ雁セ燕ノ便リヲ假ラス空ニ懸タル傳信線函ニ入レタル郵便券其神速ノ機關ハ地球

ノ上、ゼンマイ細工舞臺ニマガフ造幣寮ハ巴必齋城
モ餘所ナラズ鑲金彫玉四面ヲ圍ミ四角ノ貨ヲ圓ク作
圓キ世界ニ流通セムト新ニ鑄出ス金銀ハ目ヲ轉ズレ
バ幾千萬五歩ニ一樓十歩ニ一閣聳ヘテ見エシ煙出シ
日本島根ノ鼻柱サモ彌高二造リ上ゲ萬世不朽ノ長策
ト長キ川邊ニ懸渡ス黒鉄製ノ大橋ニ行カウ人ハ英米
蘭人カ車ノ輕便ハ飛廉ヲ欺ク疾足ニ夥多ノ客ヲ曳テ
行クイザ松島ノ鮮語ノ花傳譯モイラズ支那モヨク嫖
客ヲ佛郎西コトモナク異國人ヲ大切ニスル一片ノ真
實ハ萬國御交通ノ趣意ニハ叶ヒ旨イ午段ノ西洋料理

天竺砂糖南京茶千里ノ味ヲ坐ナガラニ腹ニ詰メ込ム
五經ハオロカ知慧ノ囊ヲ廣メント書籍會社ニ積重ニ
江湖ノ新聞蟹文花字花月ノ事ハ打捨テ有用學ニ心ヲ
用ヒ七十餘區ニ教諭ヲ布キ人ノ力ヲ黄金ニセント鍊
リ造リタル洋製ノ小學校ハ霄ニ聳ヘ神童俊兒ヲ青雲
ニ推シ上クバカリ勸學ノ絃歌ノ聲ハ湧出ル如クワツ
ト比耳ノ英才モ日ナラヌ中ニ出未ヌラム此有難キ大
御代ハヨドムヲナキ淀川ノ清キ水モテ洗ヒ上ゲ一新
開化ノ善政ヲ仰ガヌ者コソ無リケル
○京都府參事ヨリ大阪府參事へ書翰 拔寫

天皇御滯阪御引請萬端御繁務ト致遙察候何モ御都合
ヨロシク濟サセラレ候趣奉_レ忍賀候於當地ハ山陵御并
ノ御歸路博覽場へ知恩 建仁臨御出品一、天覽弟御案
内仕委細言上西陣新製ノ織物清水陶器御買上ゲニ相
成尚舎密所ニテ製出ノ品、近來檢出ノ炭酸水ナド御
用ニ相成申候

一中學へ臨御ノ節ハ於御前ニ例ノ檢査仕備
天覽候生徒ノ出頭七百員位頻リニ人數ヲ減シタレド
モ親モ子モ聞キ入レズ終ニ右ノ員ニ及ビ候
一歐學舎女工所へ臨御ノ節教師へ羽二重一匹賜之

勅語有リ女生徒ハ天皇ノ玉坐ニ着サセララル、ヲ見
テ一同立テ英語ニテ萬歲ヲ祝シ奉レリ云々

○
此頃何某一妓ヲ携へ住吉へ參詣夜ニ入り人力車ニ並
乗シテ歸路車中ニテ密ニ淫車ヲ行ヒ何氣ナキ躰ニテ
難波新地アタリニテ車ヲ下リ約ノ如ク賃錢相渡スニ
車牽云フ此車ハ常々住吉へ社參ノ客ヲ載ル故甚々不
淨ヲ忌ミ避ルナリ先刻路上ノ御様子ニテハ車大ニ汚
レ後來ノ神罰恐ルベキ車ニ付何分此車買取具様手強
申募リ色々相断ト雖モ更ニ不聞入竟ニ受分ノ金子ヲ

與へ漸々事濟タリトノ風説

評者曰神ハ至明正直ナルモノナリ何某賽神コ名トシ亂行ヲ恣ニス因之神罰即中不^{各ミラカサズ}回踵忽チ^{ヤヨクダ}許多ノ金ヲ取ラレケリ然ルニ世上追々開化ニ赴キ何事モ罰金ニテ相濟ム事トナレハ神亦其法ヲ用ヒ車牽ヲシテ罰金ヲ取ラシムルモノカ神慮ノ高妙可恐ニアラズヤ

高津早三番早ニ米搗口入ヲ渡世トスル某ノ子富藏當年十一セナリ六月十三日新地ノ川ニ^{ヲヨキ}遊戯セシガ岸ヲ

攀^ヨダ陸ニ上ラントスルニ^{スイテイ}冰底^{ツラ}淤泥ニシテ足^{シモト}下自由トラス遂ニ^{ナシ}沈溺^{テキ}ス隣家ノ人之ヲ見テ駢^{ヨボル}付引上ケレ^レ最^レ早氣絶セリ急キ醫師ヲ招キ治療スレ^レ遂ニ^{ソセ}蘇生^{カレ}セズ然ルニ人品高キ四十餘ノ人其店先ヲ通り掛リ此体ヲ見テ内ニ入り此児ノ療治致遣ハスヘシトテ家内ノ者へ米六外程ヲ炊^{カシ}ガセ其飯ヲ蒲團ノ上ニ敷^{シキ}廣^{ヒロ}ゲ團扇ニテ^{アヨキ}煽^{サマ}冷シ^シ輕^{ケイ}煖^{ダシ}ニナリシコロ其上ニ右児ノ死^シ躰^ヲ置キ^キ海^ノ苔^ノ酢^ノ如ク卷置シガ暫クシテ右児^{コキユウ}呼吸^{セリ}即チ^キ躰ヲ逆^{サカサ}ニシテ吐^ト水^{スイ}サセ脊中ニ灸ヲ三所スレハ漸々精^{セウ}氣^キ付キ翌日ニ至リ全快ス家内ノ者大ニ悦ビ右療治セシ

人ノ住所姓名ヲ尋レバ云ハズ唯兩親ノ一禮アレバ事
 足レリトテ出行ケル其人ノ咄ニ凡ソ溺死ハ時刻ノ長
 短ト大人小兒ノ差別ニテ米ノ多少ト炊キ加減アリト
 云フ右兒ノ親ハ押シテ姓名住所ヲ問ハザルヲ残念ニ
 思ヒ且奇方ニテ小兒ノ助命スレバ新聞紙ニ載テ廣ク
 世人ニ示シ萬分ヲ禮謝スルノ心得ニテ會社ニ頼出タ
 リ
 此次十一号未ル十七日ヨリ隔日出板致候方今開化日
 進車機多端ナレハ其期フ後レス事實ヲ據テ四方ニ布
 宣セント欲スル為ナリ
 會社敬白
 大阪新聞第十号

一當新聞 刑定價 二錢 毎月二號或ハ三號出版致

シ候發兌号五冊引受壹割引十冊以上引受候向ハ一
 割引二十冊以上引受分ハ二割半引

一切望ニヨツテ出版スル事件

- 新發明ノ巧器及ヒ諸品ノ賣買弘札 ○店開新規賣出シ觀ヒ物集會等引札
 - 失物尋物等ノ論田畑山林賣買 ○家屋敷舟車賣買貸借事件等
- 右之外便宜ノ事業冊中ニ編入致度候ハ、一度出版
 一行二十三字ニ付價五錢五厘宛同事件一度分、十
 錢三度分、十四錢ニテ引受出版致候

本局 敬白

日六五申年 大阪新報

發行所 書籍會社

大阪本町四丁目

賣

弘

所

- 東京両国若松町 日新堂
- 同日本橋川瀬石町角 村上勘兵衛出店
- 同日本橋一丁目 北畠茂兵衛
- 同芝三島町 山中市兵衛
- 西京東洞院三條上所 村上勘兵衛
- 同二条高倉西へ入 鳥林專助
- 大坂心齋橋筋二丁目 松邑九兵衛
- 同北久宝寺町四丁目 前川源七郎
- 同南本町四丁目 三木平七
- 同本町四丁目 梶田喜藏
- 同備後町四丁目 梅原龜七
- 同長堀橋筋二丁目 貞部武助

隔日 大阪新聞 第十一號

大阪府布令

凡儀と慎み身体と保全すべき段ハ追々布令及ひて次第も有之
 処猶不心得の者も不少起相聞候ニ付更ふ左の通相達候
 家廻り小腐敗物并悪水溜置く可うらざらざる事
 但溝浚々町内申合時々執行ひ用水ハ日々汲うへ可申事
 病死の鳥獸肉と鬻南く可うらざらざる事
 但買求る者小於ても急度吟味致し若し鬻南ものあらば早速可申出事
 市中よ於て豚并羊の如き臭気甚しきもの飼置可うらざらざる事
 但一家生活の爲近傍衆人健康の妨けとまれハ憚べき苦尤差止る筋

明治五年壬申七月十六日
 西曆一千八百七十二年八月廿九日
 本晴
 寒暖計
 九十一度

ハ無之糸人家の繁ららざる場所轉して飼置べし

一市街道路に於て糞尿もべらうさる事

但し其為其場処設けあまひ必其所に於てすべし小兒と雖も同断の事

一赤裸祖禡よて戸外又々店先へ出る事禁止の事

但し内居の時或は働の時共裸体を晒らるる事凡俗よく一

御体裁も関係し又裸體外邪感冒し易く種々の病根を醸すもの多し可慎

一男女混淆入湯不相成事

但し往来より見通し不相成様入口格子ホ囲ひ可置事

一春画并淫行の偶像画像類を齧き又ハ翫ぶ可うらさる事

石之糸々堅く相心得家族雇人且他処より寄留者ハ其

ア主より申聞ふし猶町内小前末々ハ戸長五人組頭より懇可相示り也

○右、御布告ハ凡儀ヲ宜キニ導キ病難ヲ未然ニ救ハセ

ラレ衆庶健全ナラシメント、御主意ナレバ自ラ顧み

テ其旨ヲ奉シタキモノ成ルニ左モナク裸體等ニテ往來シ或店先

ニ出テ人ニ應接スルモノアリ偶邏卒ノ眼ニ觸レ懇諭アレバ

却テ種々惡サマニ申觸レ我非ナルハ改ル心ナク邏卒去レハ肩

脱或ハ裸體トナリ来レハ容ヲ改ム者有ル由嗚呼大ナル

心得違ナリ元來人ノ見ル所ニテ肌ヲ顯シ層ヲ出スハ賤

シキ凡俗ニテ人間ノ所作ナラズ獸類ニ等シク壺界各国

中支那印度ナト此陋習アリテ文明国ノ人ハ大ニ賤シム

所之サレバ我一身ノ不慎ハ一身ニ止マラズ御国耻トモ成

ルベキ事ナレバ能ク命令ヲ守リ銘々其身ヲ慎ミ支那印
 度ノ如キ不佞勝昧ノ国ト同視セラレヌ様心得有タキモノナリ
 附言
 孟子抑下惠ノ凡ヲ論シテ云ク我側ラニ祖禡祿程
 スト雖モ再何ゾ吾ヲ浼サンヤトサレバ孟軻ハ今
 日ノ罪人ニ似タリ

○和州吉野川々有名の大河にて紀州へ流出す今般亀
 井戸と云所より水路を鑿て大和川へ通し諸材木を堺
 へ運漕する由然るふ南河内の民説ふ大和川斗ふても
 出水の節ハ破損多きと今又吉野川を加増せハ洪水の

節ハ河泉兩州の民屋牛馬ハ申迫りる人々の死傷も
 夥しうらんと愁歎せし由如此の大事件と作すものハ
 其辺の利害を必り研究の上官府の許可請ふ者あら
 ん故其実致審よせり

○心舟橋筋塩早通元車丁の辻角にて荷車と牽て不圖
 老人と突當り少々疵付とり車力大に驚き殷勤に説言
 しけるに老人少も怒る体なく懐中より紙を出し血を
 拭ひ狂歌を口をさみて去きりと云

両方々月くらふすけり車丁あつてはやくと幸ひ塩町

○五月中旬泉州上の原の田中にて大炮の鉄丸を拾ふ

者あり此上原々折節ハ砲隊試發の場にて蒸て此邊
て砲丸と拾ふ者あらば早速差出べし金百匹被遣との
布令あり然し此拾主定て此弾丸中一高價の品入置ふ
るべしと思ひ入魂の銀冶ト内談し利益をニキニて之
と破摧せんし約を則銀冶鐵鎚と以て之と撃し堅牢
して破壊せば然し此丸より小き臍の如凸所あり此と撃
ば必破きんと思ひ鎚を擧て彼臍と撃し一忽ち破裂
して四十餘の小丸飛出て四方に散乱し其声雷電の如
く鍛冶及老婦下婢都合三人黒焦と成て死し拾主も大
怪我したるとも命を助うりし由僅の欲より蒸ての

布令ふ背き弾丸の取扱も辨へばして其身を誤り天罰
と云可し慎むべき事と

○六月十八日早朝小三津寺筋中橋邊へ空樽の上にて
ふる金箱一ツ錠ハ捻切て居置とて中一銅錢六七厘
有り其近辺に紛失の沙汰も無けまば定て遠方より盜
に來り金ハ掠奪箱ハ捨置しものふるんとの説ふり
○島の内邊に堂宮の材木を買取人力車と造る者あり
已前ハ車渡壺大に繫昌せし此頃人々堂宮并殿より
しと知り土足ふかくるを恐多き事ありとて乗る人
故右の者詮方なく轉業せしと云ふ

明治五年五月二十一日

○ 區長戸長、建校尽カノ褒書ヲ達ス其文ニ云
其方儀小学建校告諭ノ本旨ヲ奉シ区内ヲ勸奨
シ規模得宜速ニ落成區民ヲシテ開化ニ至ラシ
ムルノ基ヲ立候段畢竟勉勵ノ致ス所神妙ニ付為
褒美目錄ノ通遣之事

目錄

區長工 夏着洋服地料
戸長工 帽一頭 料

- 参事建校ノ主意并教育方法、大体演述
- 講師益谷某論語学而ノ章ヲ講説ス
- 句讀師生徒心得書并市中制法懇和ノ章讀知

○ 生徒工打鮑並心得書一紙ヲ典フ

此日入学生徒二百八人區中ノ父老婦女ニ至ル迄参校
講説ヲ聴聞スル者三百餘人ニ及ヘリト云他區モ之ニ
準ヒ不日駈々開校ニ至ルベシ寔ニ當代ノ盛舉天下ノ
美事ニメ市民開化ニ進歩セル日ヲ期シテ俟ツキナリ

美濃安八郡勝村百姓与兵工忤

幸四良事 明学三十二方

○
右の者去ル丑年當地ニ米搗働出稼中乱心と相成リ
摂州鳴下郡忍頂寺村龍王山、登リ養生セシ小日おら
全快小至リシニつて御池通三丁メ修驗者宝積寺才子

とあり其後龍王山、參籠修驗道修行のこゝ居猶又昨未
 五月撰州平野御大念佛寺末義光の才子とふも名を明
 学と改り再ひ龍王山籠り修行中當三月師義光病氣着
 病の爲として當地立越し逗留中誰唱ふとなく此明学上
 人ハ龍王山にて修行中俄ニ絶命せし観音の助カよて
 蘇生したる名僧と如何なる難病も一度祈念してハ平
 癒せんと言ふと云ふと申觸し一犬嘔と告まハ萬犬突と
 告るの理と此事近隣ニ流言し來て祈禱を乞者夥しく
 恰も龍王再生の思をかし賊を投して衣食住の世話な
 とすし尊敬の餘り此頃觀音の像と明学の像と画きと

るを彫刻し摺立諸人ニ興ふより其名彌遠近ニ裏き街
 上是と生仏と唱へり然る先日何故かるる府廳より
 捕縛せらる右の始末鞫問ありし龍王山にて死する莫
 全く空死て人心と誑惑せん為り蘇生の体ニ仕成し則
 觀音の助カと唱へ其他種々詐術を以て諸人を誑し
 賊と貪りたる趣悉く白状せし由因テ右始末不埒付去ル二日
 七十敲の杖刑ニ處せらる旨申渡相成同日信仰ノ者共
 多人數呼出さる彼僧白状の次才を申聞せらる猶已後
 如是怪異の妄説ニ誑惑致さる様懇諭ありしハ斯ハ
 甚しきハ信者の中懇諭の舌未乾るぬハ杖刑ニ代らん

度や願出て大に叱り受とる由嗚呼如何なるは如是愚の甚しきや已に自ら其非多ると知て其罪を伏し其刑を請ふ猶迷の夢覺ざるとハ至愚とヤ云至昧とヤ云人間にて人間非とす不述

○泉州畑中村庄左五門當五月小岡と買来り人夫と雇て開拓せし岡の頂より銅錢數多掘出とり人夫怪て尚深く掘し一の壺あり買主来掛り大に怡ハ右壺と持歸て見是ハ古銅錢あり賣主も之を聞て定り黄金成る可しと思ひ駈来し錢多此件縣廳工訴出し廳より賣主三分買主五分人夫五分と配賜せらる由然る不買主

ハ右壺と持歸て密室にて死き黃泊の令を隠し置し銅錢むり差出ると云説あまとも縣廳より聞調の上で指図相成し事故へ疎漏々之有間敷ナリ

○南大組第九區千早町嵐和橋悴裁太郎^申六才此者四才の頃より算学句讀と好む記憶聰敏の由追々学校建営を志ハる童見生長頼母シ其親とるもの私愛ニ溺レズ早々入校相頼と天授ノ戈ヲ成就ナシテ貫ヒ度モノナリ

○今般淀川舟賃更正

- 一人前 金三朱ノ舟 ^改 金二朱
- カラス張屋形早舟 同 金二朱ノ舟 ^改 銅幣十錢
- 三十石

明治五年申年 大阪新聞第廿一號

明治五年壬申七月廿八日
 西曆一千八百七十七年八月廿八日
 本日晴
 寒暖計
 八十三度

堂嶋濱

開商社商品時價

黑砂糖

物價日表

撰津 十七日二系九十五 六日三系六八	肥後 十七日三系七十 六日同 六十	筑前 十七日三系七十 六日同 五十	水油 一石 十七日六兩三三 六日三兩二	酒 拾駄 銘 四十五 地廻 四十	塩 百俵 每田十二系五 赤穂 北系	茶 百斤 大頭 五十七 上頭 五十二 頭 四十二	子鰯 羽鰯 一系二十 鮮鰯 一系二十 鮮鰯 一系二十	晒蠟 百斤 地廻十六系 國登十四系	綿 百反 四十二系 二十二系	木綿 豫 二十二系	純銅 百斤 二十系	生糸	昆布 百石 八十五系 刺葱 三系 刺葱 三系	寒天 百斤 四系 六系七十五
--------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------------	---------------------------	----------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------	-------------------------	-----------------	-----------------	----	------------------------------------	-------------------------

伏テ其ノ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ
 本局及ヒ撰集所ニ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンヲ但ニ
 投書ニ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ
 ○望ニヨッテ出版スル件 △諸品賣買 △新店開キ
 △觀セモノ集會等引札 其他世間ニ披露事件總テ應其望
 出版一行廿三字ニ付 定價五錢宛ニテ引請可申候

本局 本學通四丁目
 書籍會社
 撰集所 長堀橋筋三丁目
 青湖堂島
 取次三府及諸國

大阪新聞 第十三號

大阪府布令

府下從來火防ノ法正シカラズ人ノ其急ニ走ルヤ唯々雜
 ナ極ル而已ニテ火ヲ救フモノ十ノ二三ニ過キス如之其泥
 ニ乘シ人ノ家財ヲ盜ムモノアリ畢竟規則ノ正シカラズル
 ニ因ル抑人ノ不幸火災ヨリ甚シキハ十ニ累壺ノ遺財萬
 金ノ貯蓄モ一朝ノ凡煙ニ付シ候事ナレハ人々互ニ救援
 之防禦ノ術緩カセニスベカラズ故ニ今般其法ヲ改正シ強
 壯ノ者四百餘名ヲ撰シ附スルニ西洋便利ノ器械ヲ以
 ス市民宜シク此意ヲ体シ左ニ掲グル條々堅可相守者也
 附出火ノ節當府出張所目標 并掛官員及ヒ消防方

月名五廿三

大阪府

號

目標別紙ノ通り相改候ニ付為心得相達候事

右之趣市中無洩相達スルモノ也

圖畧

壬申六月

條々

失火ノ節ハ能々火勢見計ヒ道具等取片付可シ無
弁ニシテ立騒ク時ハ不慮ノ損失アルモノニ付深ク注意
致シ根根セサル様可心掛事

火火場見舞 差ニ助勢ノ外無用ノ者場所ニ立見致レ居
ル車堅ク令禁止候若レ束手傍觀イタス者ハ鞭撻ヲ加
フル事モ可有之ニ付兼テ相心得居可申事

附 留人ハ平日戸長或ハ戸主ヨリ申聞置メシ
不心得ニテ立見致居候ハ本文同断タルベキ事

壬申六月

○新聞雜誌五十號ニ大阪驅徽院ノ設アリテヨリ

共ソノ苦情ニ不堪多分西京工上レリ万客モ亦十二八

九西京ニ遊フ彼地ノ繁昌前日ノ比ニアラスト或人語

ルヨシヲ載ス是大ニ誤談ナリ西京ノ繁昌ハ今般博覧

會ノ大奉アリ援クルニ花笑ヒ柳舞フ遠近ノ輻輳全ク

此レニヨレリ彼地ニテモ不日検査ノ法ヲ設ケラル趣ニテ我

阪地駢徽ノ方法ヲ聞合セアル由ナリ花街ノ盛衰榮枯何

ソ彼ノ検査ノ事ニ相関メン世ノ遊冶郎免角妓等ノ苦

情ニ荷擔シ無根ノ浮説ヲ唱へ出シ人ヲ惑ハレ化ヲ妨

クル事不少遠地ノ凡聞ヲ採擇スルニモ取捨アルベキ

トリ

コトナリ

投書

○予頃日神戸ニ在リシ片炎暑ヲ凌避センタメ親友ト俱ニ布引曝布ニ遊歩シ或茶店一聲ト呼ブ家ニ休憩スル折英人ニ名來テ懋ヒ懷中本ヲ出シテ頻リニ神經ヲ讀シ友人ト是ヲ弁論セシニ婢女側ニ來テ云「アナタ娘タイサン好キ私アナタニホレシ」杯其餘怨耻ノ媠言ヲ吐キ醜顔ニ媠艶ノ媚ヲ摸表シ彼等ニ戯ムル英人謙避シテ屢制スト雖モ不聞シテ猶彼レノ陰莖ニ掌ヲ觸レ或ハ已レノ乳ヲ出シテ彼レニ保握サントスル實ニ婦タルモノ論理ニ有間數所業余側ニ在テ是ヲ目撃シ更ニ汗顔セリ竊ニ彼ノ友人

ト會話セル英語ヲ耳クニ方今日本文明究化ニ進歩サセンタメ政府良善ノ制ヲ施シ無耻ノ所業有マ敷様既ニ演劇ニ至ル迄布告アルト聞シ然ルニ猶未ダ様不節ノ婦人外國人對シ辱ヲ與エル實ニ朝旨ヲ宣揚セザルモノニ憎ムベキ丁到度其主親ノ教示不慤ニ依ルト是ヲ聊ノ事ナレド文明國ニハ如是穢習ハナシ宜ク於政府懇教アリタシト語リ心中大ニ婦ノ不敬ヲ怒リ直ニ立退ケリ予跡ニテ婦ニ其一ニヲ解キ以來ヲ警誡セシカドモ神戸及此地ニモ徃々支レニ類スルノ婦頗ル多シ外國人ノ遊歩スル已レノ適意ニ樂ヲ定メ樹下ニ憩テ讀書スル杯頗ル愉快タリ

大阪新聞第十三号

然ルニ此婦ノ如キ彼レノ歡ヲ妨ク而已ナラス國辱ヲ觀サル
ハ愚ノ甚ニキト云ニ故其親ノ教育能此ニ注意有タキナリ

謙招 房次郎

○近説

八万筋ノ日頃義太夫節ノ淨瑠璃ト好ミ折節ヲ素人會
ノ出語も致セリ者あり此頃炎熱ノ苦ミ裸体ハ制禁ス
連とも何成リも一衣掛け候ハ不苦トの説あれハ是幸
ひと義太夫の肩衣と取出し裸身の上ニ掛け前の方々
犢鼻褌ニ挟く店先ニ出て仕事セリ左右の脇より涼
凡吹透セバ是は倔強の新發明と思ひ意氣揚々たり
性來の人之を見て笑と會まざるハ適々選卒通り合

此体也見咎め裸体ニ禮服と着す不作法あり以來々
心度懐むへーと叱らまたり

江の游廓にて紙店の若者藝妓杯呼集り酒興の餘
一鉢の酢飯と一椀の熱汁と喰ひ終りの遅速と賭
けろが妓子を汁と吹冷し既ニ吸尽さんとす
口ハ負けまどと頻ニ酢飯と食いけろが氣急の俣ニ三
一切を一口ニ吞噬し咽喉ニつりて氣絶せり傍
者とも立騒手と尽せども蕪らば其間函師も招きけれ
遂ニ死したる由是ハ旧臘十二日の事なり世ハ如此思慮
身と果す者有リ一奇事なまハ斯ニ記ル

明治五年壬申七月廿五日
 西曆一千八百八十七年八月廿五日
 本日雨
 寒暖計
 七十五度

隔日發兌 大阪新聞 第十四號

大阪府布令

兼テ令勸奨候澳國博覽會
 差出候物産并手細工物
 其他ノ品々今度奉供天
 覽候処尤ノ通御用相成実
 以冥加之至候就テハ向後
 弥丹誠ヲ尽シ成丈無用ノ
 翫物ニ流レサル様心ヲ用
 二新規發明ノ機械ハ勿論
 諸物産ヲ真ニ往々盛大ノ
 御用相勤候儀工商ノ者業
 体ノ本意タル事厚ク可相

奇説

○高津九番丁 狂人飯味又右門
 娘きの今茲此才女髮結と業
 として柔順の性質あり四月
 下旬より熱病に侵さるる才
 二相重に数日絶穀して日夜
 結語一函禱更に勤多ク
 して已に危篤に及ひ六月
 十九日夕刻病者西親に向ひて云

明治五年壬申七月廿五日

物價日表

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ
 本局及ヒ撰集所工寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハシコト但シ
 投書ニ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ
 ○望ニヨッテ出版スル件 △諸品賣買 △新店開キ
 △觀セモノ集會等引札 其他世間ニ披露事件總テ應其望
 出版一行廿三字ニ付定價五錢宛ニテ引請可申候

堂鳴濱	開商社商品時價	黑砂糖	綿金	木綿	純銅	生糸	昆布	寒天
攝津十九日三系八錢	水油 一石 十九日廿兩二	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢
肥後十九日三系六錢	酒拾駄 廿四日廿五	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢
筑前十九日三系五錢	鹽百俵 廿四日廿五	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢
北日同七十五錢	茶百斤 廿四日廿五	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢
	于鰯 廿四日廿五	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢
	晒蠟 百斤 廿四日廿五	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢	百斤 廿七錢

本局 書籍會社
 撰集所 青湖堂島
 取次 三府及諸國

心得モノ也

右之趣市中無洩相違モノ也

壬申六月

- 一團扇一本
- 一白地同一本
- 一藥玉小一
- 一同玉大一
- 一釣棹三本
- 一小扇子一箱
- 一極小扇子箱
- 一卷團扇三本
- 一寒天製紙
- 一金地同一本
- 一鯨細工巻蓆八
- 一同紙挾二
- 一作花アヤ臺美
- 一守袋八
- 一松竹梅骨扇三
- 一扇子大小取交十
- 一引出扇一本
- 一縮貞田打紐三
- 一堆黒盆大一

唯今暫時睡眠の間ニ大蛇ニ頭枕邊ニ来て云我れニ一祠と建立し吳か其報ニ爾の病苦と救遣すと云とおひ夢覺り西親ニ此事と語り建営せん事と云ふニ父母も猶熱氣の爲ニ譚語すありんと軍棄ニ致せし其翌日亦眼間昨日ニ異ありて夢見り由故西親モ半信半疑たゞ隅地ノ小祠と建立せし

一堆黒盆蓮形大

一同小一

一藤テイシ一

一本綿糸鳴池娘製

一ピン

一花笄

一麥藁細工壺

一錫水罌械

一罌械付書棚

一紅漆汗手拭

以上

一同撫角菓子盆一

一藤細工笠一

一花実細工籠入一

一大阪製氷砂糖

一走り人形一

一鼈甲花笄

一竹細工カバン

一藤巻思入一

一色蠟燭

差出入廿九名

畧

其夜又夢中ニ来て之と謝し喜て去り其日漸々快方ニ向ひ不日平愈ありと云又其髮職の門才ニたぬと云少女六月廿二日不計ニ階ニ頭ノ蛇梁り半身を垂頭ハセしと見しと語りける翌朝不図髻を剪る形状を見て家内大ニ驚て其故と問へんと答るに愈怪んで大ニ是を詰問す

去ル朝日長岬表ヨリ當地に着セ
シ人ノ嚙ニ今般魯西亞王
弟三皇子 皇国遊歴トシテ大軍
艦七艘ヲ引率シ長岬着港
ノ上東京赴カル由テ去月廿
九日先艦長岬着港セリ乗合
人数千二百人計船艦大砲
等新製ノ奇巧ヲ極ノ及士
官ノ衣服鮮麗目ヲ驚テ計リ
ニテ彼国近年富強萬国冠絶

バ稍く云前夜夢大蛇来り戒りて
云汝平生心底不直なり此後改
心致さばハ忽ち罰すべしと早て
そむハ恐怖一以来を改と改
心致す一と答へし然らハ免れ
一此事必し他語可く成若し
背く爾の命を取べしと夢覺れ
るに響りハ枕下落りしを此事
件奇怪造説と似れども顯然其隣
家之ヲ視之ヲ聴しと云ん

シ殆ト海宇ヲ并吞スルノ勢
アリトノ凡軍實ニ虚説ニア
ラザルヲ知ルベシト云々
○六月廿九日住吉社於テ大
稜神吏執行ノ節近隣近在炎
暑不厭駁敷參詣シ尽ク萬
歳ヲ仰ク酒茶水湯保美ノ店
社内ニ滿ク中ニ同商並居ルアリ
甲ハ同所安立町ノ者ニシテ乙ハ
大阪日本橋筋ノ者ナリ然ルニ甲

○或老翁伊勢神廟參詣の途
中暗がり峠と越ゆるに駕車
乗る人足共種々世間話の中
に此頃も人カ車あるの流行
して我生活の妨げとあり御一
新も有難うと語りけるに聞て
えりかり乃圍を亂まぬかと云ん
う口吟りる風流なり餘程趣
向味ひありて面白けきハ斯く
記して四方風流を好む人告く

月五 申年 大正 第百五

某乙某ノ他所ヨリ来リ利ヲ得
 ルヲ見嫉妬心ヲ生シ妄リニ乙
 ノ高店ヲ覆ス時ニ巡邏卒ノ
 此ニ迫キ来ラントスルヲ見テ自カラ
 其責ヲ受ニテ恐レ我店ノ利益
 金ヲ出シテ罪ヲ乙某ニ謝スル
 有リト云嗚呼人ノ利ヲ棄ハント
 欲シ却テ我利ヲ失ヒ乙ハ
 商店ヲ毀タシテ還テ其利ヲ
 得ル譬ニ云月夜猛犬餅ヲ齧

〇天満信保丁加賀屋弥助と
 云々者郵便の飛脚を業と人
 又一人懇意の者ありて弥助
 此者と代脚に雇ひ城筋、遣
 ハせし道に書状一通取落せり
 驛遞寮より蔽く詮或り
 全く道を取落せり由乍去
 弥助代足故自己取落せりと申
 出罪究り局中と三十日入牢の
 上、五十敲杖刑、所置相成る由

シテ一橋ヲ過リ影橋下ノ水

ニ駕ルヲ見テソノ我影ナルヲ

知ラズ只管彼ノ餅ヲ奪ハント

シテ我餅ヲ橋下ニ落スト

壺間ノ同職全商ヲ嫉ム者

ハ彼犬ノ影ヲ食ヒ甲某ノ

價金ヲ出スニ異ナラシカ

〇操り浄瑠璃文樂座當春来
 ヨリ松島ニテ真行ノ処今益
 替リ八元ノ縮荷ニテ真行ノヨシ

御披露 色模様等御好次第

浪花織

一西洋夏服地 一男女帯地

一トツコ入織物

右品々極上糸ヲ以テ織立極て
 下直上賣捌申候彼ノ播筑京
 博多と唱多ももの勿論不筑博
 多よりも為り方宜しく候四方君子
 品價の精良奇機の精工御覧
 の上多少限らば御注文奉希
 上候以上 大阪北堀江通五丁目
 織元 大三輪長兵衛

明治五年壬申七月廿七日
西曆一千八百八十七年八月廿七日
本日晴
寒暖計
七十度

隔日發兌

大阪新聞 第十五號

大阪府布令

一從來橋梁火除地ニ髮結床煮賣店未取建差免置候處
追日諸車陸運相関ケ候ニ付而ハ追々市街道路ノ定期
可相立所差向右侧髮結床煮賣店未立退可申付答ニ
候得共左候テハ一時難決セ可有之ニ付漸々以轉移可
致候就テハ橋梁架替ホニ付差支ノ場所ハ其節ニ立退
可申付候条為心得此段相達候
一堀々濱地ニ有之候建家不都合ノ場所有之ニ付遂検査道路
取弘可申付場所モ可有之間建替繕普請ホ届出候節
取拂可申付場所モ可有之候条此旨兼而可相心得事

物價日表

堂嶋濱	開商社商品時價	黑砂糖	綿	純銅	生糸	昆布	寒天
撰津 昔三系廿三 昔同廿三	水油 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	金毛兩 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一
肥後 昔三系廿八 昔四系	酒拾駄 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一
筑前 昔三系廿八 昔同九十九	鹽 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一
	茶 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一
	于鰯 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一
	晒蠟 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一	百斤 昨日廿一 昨日廿一

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ
本局及ヒ撰集所ニ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハシメ但シ
投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フニ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ
○望ニヨリ出版スル件
△諸品賣買
△新店開キ
△觀セモノ集會等引札
其他世間ニ披露事件總テ應其望
出版一行廿三字ニ付定價五錢宛ニテ引請可申候

本局通四丁目
書籍會社
撰集所 青湖堂島
取次三府及諸國

○
 善ハ称シ悪ハ隠ス苦ナレトモ菟角善ハ言ハズシテ悪ハ倍
 シテ謗ルノ人情ナルガ當地最モ此弊多ク善ナルモ已レニ
 不便不勝手ナルハ悪シサマニ云ナシ悪ナルモ已レノ勝手宜
 敷事ハ捨テ憎マズ試ニ此一事ヲ言ハシニ當地ハ商業便
 利ノ場必ナレバ随テ富家モ多ク盜賊モ自然輻湊シテ既
 ニ先年迄ハ押入石割等ノ強盜絶ユルナク或ハ莫大ノ
 財ヲ掠メラレ或ハ症ヲ被リ或ハ非命ノ死ヲ致スモノ不
 鮮シテ一夜モ安キ心ハ無カリシモ昨年ホリスノ設ケア
 リテ以來此災害頓ニ消エタル如ク賊徒ハ地ヲ拂テ去

レリ所謂鎖サ、又御代トナリテ人々枕ヲ高シテ安眠シ
 巨萬ノ財ヲ蓄フルモ觀ル所ナキハ偏ニ官府ノ保護ニ
 ヨルモノニシテ善ノ驗シキ是ヨリ明ナルハナシ然ルニ一人トメ
 此善ヲ言フモノナシ却テ取締ノ嚴ナルヲ謗ル者アリ
 之ヲ譬ハ徽毒ヲ病メル者ヲ療スルニ医師鶏肉ヲ喰セ
 シムレバ患者云医我レニ毒ヲ喰セシムト怨ムノ類ナルベシ
 誠ニ心得違ノ甚敷モノト云ベシ是ヲハ常ニ區長戸長杯
 ヨリ申諭シ有タキモノナリ

○阿州復讐

阿州徳島ノ西ニ一ノ宮ト云ヘル所ハ神社アリ且ツ四国巡

拜ノ地ニテ酒店娼家等アリテ繁昌シケルガカ藏ト云モノ
 放蕩無頼博徒ノ巨魁ニテ近隣ニ横行ス夫ル五年同村某ト
 口論ニ及ビ捻伏セ噬付タリ某ハ此疵ヲ疾テ三昼夜苦
 痛シ既ニ死セントス某ニ二女アリ姉トシテ妹トシテ
 ナルヲ枕上ニ召寄セ我レニ男子アラバ仇カ藏ヲ討テ無念ヲ
 晴ラスベキニ汝等女子ナレバ詮無キトナリトテ終ニ黙タリ
 二女ハ悲歎ノ餘リ亡父末期ノ一言ヲ忘レス女ナカラモ
 俱不戴天ノ讎ヲ討テ父ノ執念ヲ散セント思ヒ両女共
 ニ短刀ヲ懐ニシカ藏ヲ付覘ヒシガ同所ノ院主之ヲ聞
 テ二女ヲ諭シ仇カ藏ハ髮ヲ剃リ襦衣ヲ着セ我ノ弟子

ニ致スヘシ何トゾ仇討ノ念ハ断ツベシト省メケルニ二
 女モ得心シケルガカ藏ハ豪気強カナレバ両女ヲ輕蔑シ佛
 門ニ入ル心更ニ無ケレバ二女ハ弥決心シ時節ヲ見テ報
 讐セント心掛クレ氏女業ニテハ容易ニ近キ難ク遂ニ八年ノ
 星霜ヲ經テ今茲壬申ノ三月廿日同所鳥井前ノ料理屋
 ニテカ藏酒ヲ飲ミ折節雨天ナレバ傘ヲ持テ帰ル所ニ二女
 ハ立寄り着セシ雨衣ヲ脱テ白衣トナリ親ノ仇キ勝負
 セヨト名乗り掛ケ短刀ニテ雙方ヨリ突カ、リ暫ク闘ヒ
 シガカ藏面倒ナリト傘ヲ振揚テ姉ヲ打倒サントセシニ妹
 カ藏ノ股ヲ突クカ藏振反リテ妹ヲ打ントスルニ姉ハ脇

腹ニ突込タリニ所トモ深手ナレバカ藏叶ハジト思ヒ傍
 ノ家ニ逃込タリニ女追駈ケ其斬ニ殺シ仇討ナリ早々
 其者出サレヨ左ナクハ踏込ミ討取ラバ後日當家ノ難義
 ナルベシト大音ニ喚リケレバカ藏ハ裏ロヨリ遁レントス
 ルウチ邏卒馳来リカ藏ヲ縛シニ女モ召連レ縣廳ニ訴出
 タリカ藏ハ三昼夜苦痛シテ死タリニ女ハ廳命テ士族
 ノ屋敷ニ留置カル當年姉廿九才妹十九才ナリトゾ
 評ニ曰某ハ八ヶ年前カ藏ガ為ニ三昼夜苦痛シ三月
 廿一日死タリシガカ藏モ亦タニ女ノ為ニ三昼夜苦痛
 シテ死タリ是當三月廿一日ノ仇討ニテ苦痛モ同シク月

日モ同シケレバ全ク七彪ノ執念トニ女ノ孝心ト然
 ラシムル所ナルカ

○心舟橋ヲ今般鉄橋ニ架替相成趣ニテ當十四日ヨリ築造
 ニ取リ掛レリ新早橋モ同断ニテ是ハ近々出来ノ由

當六月六日於川崎造幕寮
 天覧相撲前後五十四組ノ内
 勝
 長龍 松ノ音 玉詭 朝日松
 黒岩 熊麩毛 俣好二付
 八陣 陣幕 王龍 鞍ヶ籠

○毎々御面倒みたり御目
 つろては法覧と願ふ浪花織
 御一洋服地 一男女帯地
 披一羽織袴地一ト入り物
 露 右品々極上品下直ニ賣捌候
 織元 北堀江通五丁ノ
 大三輪長兵衛

明治五十年 新刊第十五号

物價日表

<p>堂嶋濱</p> <p>撰津 廿五日休 廿七日三系十錢</p> <p>肥後 廿七日三系十錢</p> <p>筑前 廿七日三系十錢</p> <p>水油 廿七日廿二文二ア</p>	<p>開商社商品時價</p> <p>酒拾駄 地廻 四十五系 下廻 三十系</p> <p>鹽百俵 每百十二系五錢 赤鹽 九系</p> <p>茶百斤 大頭 五十七八錢 頭 四十二錢</p> <p>子鯛 一系二十錢 羽鯛 一系二十七錢 鮮 八十一五錢</p> <p>晒蠟百斤 地廻十六系五錢 同 廿四系五錢</p>	<p>黑砂糖三嶋 四系十五錢 百斤 五系十七錢</p> <p>綿金鹿兩 阪上七百目無 京丹七百目數 阪丹七百目數</p> <p>木綿 豫雲 四十二系 百反 二十二系</p> <p>純銅百斤 二十系</p> <p>生糸</p> <p>昆布 百石 八百五十系 三石 三系十錢 京極 三系十錢</p> <p>寒天 千本 四系十錢 千本 六系七十五錢</p>
--	--	---

伏テ其ノ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ
本局及ヒ撰集所ニ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ至シテ但シ
投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セ至フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

◎望ニヨツテ出版スル件 △諸品賣買 △新店開キ
△觀セモノ集會等引札 其他世間ニ披露事件總テ應其望
出版一行廿三字ニ付 定價五錢宛ニテ引請可申候

本局 本甲通四丁目
書籍會社
撰集所 長堀橋筋三丁目
青湖堂島
取次 三府及諸國

小三冊
ワカ

